

Stratonovich-Hubbard 変換

塩崎 謙

2013 年 5 月 17 日

目次

1	Gauss 積分	3
1.1	実 c 数 (real boson)	3
1.2	複素 c 数 (complex boson)	3
1.3	実グラスマン数 (real (Majorana) fermion)	3
1.4	複素グラスマン数 (complex fermion)	4
2	Stratonovich-Hubbard 変換	5
2.1	実ボソン	5
2.2	複素ボソン	5
3	Cooper channel	7
3.1	Cooper channel のハミルトニアン	7
3.1.1	具体例 : s 波	8
3.1.2	具体例 : ${}^3\text{He-B}$	10
3.2	Stratonovich-Hubbard 変換	14
3.3	Stratonovich-Hubbard 変換 (運動量空間表示)	17
3.4	有効作用	21
3.4.1	1 loop (Gauss ゆらぎ)	22
3.5	ギャップ方程式 (平均場)	22
3.6	Ginzburg-Landau free energy	23
3.6.1	s 波	26
3.7	Ginzburg-Landau (運動量空間表示)	28
3.8	Ginzburg-Landau 有効作用	29
3.8.1	Ginzburg-Landau 有効作用 ($T > T_c$)	30
4	Coulomb channel	31

4.1	Coulomb channel のハミルトニアン	31
4.1.1	具体例：等方的なハードコア斥力	32
4.1.2	具体例：接触型、CDW・SDW	33
4.2	Stratonovich-Hubbard 変換	34
4.3	クーロンガス	35

1 Gauss 積分

各種変数に対するガウス積分についてまとめておこう。

1.1 実 c 数 (real boson)

$\phi = (\phi_1, \phi_2, \dots, \phi_n)^T$ を実数のベクトル、 $H = H^T$ を $n \times n$ 対称行列とする。また H は正定値だとする： $H > 0$ つまり H の固有値は全て正とする。この条件はガウス積分が収束するために必要な条件である。(そのため Stratonovich-Hubbard 変換を行う際に斥力が引力かで Stratonovich-Hubbard の方法が決まる。)

$$\int \prod_{i=1}^n \frac{d\phi_i}{\sqrt{2\pi}} \exp\left(-\frac{1}{2}\phi^T H \phi\right) = (\det H)^{-\frac{1}{2}} \quad (1)$$

$J = (J_1, J_2, \dots, J_n)^T$ を複素 c 数のベクトルとする。

$$\int \prod_{i=1}^n \frac{d\phi_i}{\sqrt{2\pi}} \exp\left(-\frac{1}{2}\phi^T H \phi + J^T \phi\right) = (\det H)^{-\frac{1}{2}} \exp\left(\frac{1}{2}J^T H^{-1}J\right) \quad (2)$$

1.2 複素 c 数 (complex boson)

$\phi = (\phi_1, \phi_2, \dots, \phi_n)^T$ を複素 c 数のベクトル、 $H = H^\dagger$ を $n \times n$ エルミト行列とする。また H は正定値だとする： $H > 0$ つまり H の固有値は全て正とする。

$$\int \prod_{i=1}^n \frac{d\phi_i^* d\phi_i}{2\pi i} \exp(-\phi^\dagger H \phi) = (\det H)^{-1} \quad (3)$$

ここで $\phi^\dagger = (\phi_1^*, \phi_2^*, \dots, \phi_n^*)$ である。 $J = (J_1, J_2, \dots, J_n)^T$ を (複素)c 数のベクトルとする。

$$\int \prod_{i=1}^n \frac{d\phi_i^* d\phi_i}{2\pi i} \exp(-\phi^\dagger H \phi + J^\dagger \phi + \phi^\dagger J) = (\det H)^{-1} \exp(J^\dagger H^{-1}J) \quad (4)$$

1.3 実グラスマン数 (real (Majorana) fermion)

n を偶数、 $\gamma = (\gamma_1, \gamma_2, \dots, \gamma_n)^T$ を実グラスマン数のベクトル、 $H = -H^T$ を $n \times n$ 反対称行列とする。c-数のガウス積分とは異なりグラスマン数の場合は H の正定値性は積分の収束に不必要である。^{*1}

$$\int \prod_{i=1}^n d\gamma_i \exp\left(-\frac{1}{2}\gamma^T H \gamma\right) = \sum_{p \in S_n} \text{sgn}(p) H_{p(1)p(2)} H_{p(3)p(4)} \cdots H_{p(n-1)p(n)} = \text{Pf}(H) \quad (5)$$

^{*1} グラスマン数の微分・積分の定義については九後先生の教科書参照。

ここで $\prod_{i=1}^n d\gamma_i = d\gamma_1 d\gamma_2 \cdots d\gamma_n$ である。

$J = (J_1, J_2, \dots, J_n)^T$ を (複素) グラスマン数のベクトルとする。

$$\int \prod_{i=1}^n d\gamma_i \exp\left(-\frac{1}{2}\gamma^T H \gamma + J^T \gamma\right) = \text{Pf}(H) \exp\left(\frac{1}{2}J^T H^{-1} J\right) \quad (6)$$

さらに、次の場合を考えておく。 $\xi = (\xi_1, \xi_2, \dots, \xi_n)$, $\eta = (\eta_1, \eta_2, \dots, \eta_n)$ を実グラスマン数とし、 H を $n \times n$ 行列とする。このとき

$$\int \prod_{i=1}^n d\xi_i d\eta_i \exp(-\xi^T H \eta) = \det H \quad (7)$$

$J = (J_1, J_2, \dots, J_n)^T$ を (複素) グラスマン数のベクトルとする。

1.4 複素グラスマン数 (complex fermion)

$\psi = (\psi_1, \psi_2, \dots, \psi_n)^T$ を “複素” グラスマン数 (実グラスマン2個) のベクトルとし、その複素共役を $\psi^* = (\psi_1^*, \psi_2^*, \dots, \psi_n^*)^T$ と書き、 $H^\dagger = H$ を $n \times n$ エルミト行列とする。複素グラスマン数に対する積分の定義を

$$\int d\psi_i \psi_i = \int d\psi_i^* \psi_i^* = 1, \quad \text{他は } 0 \quad (8)$$

としておくと、

$$\psi_i = \xi_i + i\eta_i, \quad \psi_i^* = \xi_i - i\eta_i, \quad (9)$$

と実グラスマン数 ξ_i, η_i に分離した場合に、グラスマン数の測度の変換則 $d^n \gamma = \det A d^n (A\gamma)$ と矛盾しない。^{*2}すると

$$\int \prod_{i=1}^n d\psi_i^* d\psi_i \exp(-\psi^\dagger H \psi) = \det H \quad (11)$$

ここで、複素フェルミオンの自由度は、状態1個に対し実グラスマン数2個であることに注意 (複素グラスマン数2個ではない)。また $\det H = \det H^T$ より

$$\int \prod_{i=1}^n d\psi_i d\psi_i^* \exp(\psi^\dagger H \psi) = \det H \quad (12)$$

にも注意。 $J = (J_1, J_2, \dots, J_n)^T$ を (複素) グラスマン数のベクトルとすると

$$\int \prod_{i=1}^n d\psi_i^* d\psi_i \exp(-\psi^\dagger H \psi + J^\dagger \psi + \psi^\dagger J) = \det H \exp(J^\dagger H^{-1} J) \quad (13)$$

^{*2} ちなみに

$$d\xi_i d\eta_i = -2i d\psi_i d\psi_i^* \quad (10)$$

となる。

2 Stratonovich-Hubbard 変換

2.1 実ボソン

$\rho = (\rho_1, \rho_2, \dots)^T$ をグラスマン偶の場合、 V を対称行列とし V の固有値は全て正であるとする。

$$e^{-\rho^T V \rho} = e^{-\rho_i V_{ij} \rho_j} \quad (14)$$

の形の相互作用項に対し Stratonovich-Hubbard 変換を施す。

ϕ を実ボソン場、 $A = A^T$ を対称行列とする。

$$\int \prod_{i=1}^n \frac{d\phi_i}{\sqrt{2\pi}} \exp\left(-\frac{1}{2}\phi^T A \phi\right) = (\det A)^{-\frac{1}{2}} \quad (15)$$

を用いる。定数項は測度にまとめて

$$\int D\phi e^{-\phi^T A \phi} = 1 \quad (16)$$

と書こう。すると

$$\begin{aligned} e^{-\rho^T V \rho} &= \int D\phi e^{-\frac{1}{4}\phi^T V^{-1} \phi} e^{-\rho^T V \rho} \\ &= \int D\phi \exp\left(-\frac{1}{4}\phi^T V^{-1} \phi - \rho^T V \rho\right) \\ &= \int D\phi \exp\left(-\frac{1}{4}(\phi + 2iV\rho)^T V^{-1}(\phi + 2iV\rho) - \rho^T V \rho\right) \\ &= \int D\phi \exp\left(-\frac{1}{4}\phi^T V^{-1} \phi - i\phi^T \rho\right) \end{aligned} \quad (17)$$

2.2 複素ボソン

$\rho = (\rho_1, \rho_2, \dots)^T$ をグラスマン偶の場合、 V をエルミト行列とし V の固有値は全て正であるとする。

$$e^{\rho^\dagger V \rho} = e^{\rho_i^* V_{ij} \rho_j} \quad (18)$$

の形の相互作用項に対し Stratonovich-Hubbard 変換を施す。

ϕ を複素ボソン場、 A をエルミト行列とする。

$$\int \prod_{i=1}^n \frac{d\phi_i^* d\phi_i}{2\pi i} \exp(-\phi^\dagger A \phi) = (\det A)^{-1} \quad (19)$$

を用いる。定数項は測度に組み込み

$$\int D\phi^* D\phi e^{-\phi^\dagger A \phi} = 1 \quad (20)$$

と書こう。すると

$$\begin{aligned}
e^{\rho^\dagger V \rho} &= \int D\phi^* D\phi e^{-\phi^\dagger V^{-1} \phi} e^{\rho^\dagger V \rho} \\
&= \int D\phi^* D\phi \exp(-\phi^\dagger V^{-1} \phi + \rho^\dagger V \rho) \\
&= \int D\phi^* D\phi \exp(-(\phi + V\rho)^\dagger V^{-1} (\phi + V\rho) + \rho^\dagger V \rho) \\
&= \int D\phi^* D\phi \exp(-\phi^\dagger V^{-1} \phi - \phi^\dagger \rho - \rho^\dagger \phi)
\end{aligned} \tag{21}$$

もしくは再スケールして

$$e^{\rho^\dagger V \rho} = \int D\phi^* D\phi \exp\left(-\frac{1}{4}\phi^\dagger V^{-1} \phi - \frac{1}{2}\phi^\dagger \rho - \frac{1}{2}\rho^\dagger \phi\right) \tag{22}$$

$$e^{\frac{1}{2}\rho^\dagger V \rho} = \int D\phi^* D\phi \exp\left(-\frac{1}{2}\phi^\dagger V^{-1} \phi - \frac{1}{2}\phi^\dagger \rho - \frac{1}{2}\rho^\dagger \phi\right) \tag{23}$$

$$e^{\frac{1}{4}\rho^\dagger V \rho} = \int D\phi^* D\phi \exp\left(-\phi^\dagger V^{-1} \phi - \frac{1}{2}\phi^\dagger \rho - \frac{1}{2}\rho^\dagger \phi\right) \tag{24}$$

3 Cooper channel

引力の Cooper channel に対して、Stratonovich-Hubbard 変換、ギャップ方程式、GL 有効作用についてまとめる。

3.1 Cooper channel のハミルトニアン

次の形の一般的な 2 体相互作用を考える：

$$\begin{aligned} H_{int} &= \sum_{[12][1'2']} V_{12,1'2'} c_1^\dagger c_2^\dagger c_{2'} c_{1'} \\ &= \frac{1}{4} \sum_{121'2'} V_{12,1'2'} c_1^\dagger c_2^\dagger c_{2'} c_{1'} \end{aligned} \quad (25)$$

作用を

$$-S[c, c^*] = \int_0^\beta d\tau \left(\sum_{12} c_1^* (-\partial_\tau \delta_{12} - H_{12}) c_2 - \sum_{[12][1'2']} V_{12,1'2'} c_1^* c_2^* c_{2'} c_{1'} \right) \quad (26)$$

とする。虚時間の自由度 τ は必要があるまで特に明示しない。 $V_{12,1'2'}$ は反対称化されているものとする：

$$V_{12,1'2'} = -V_{21,1'2'} = -V_{12,2'1'} \quad (27)$$

またエルミト性：

$$V_{12,1'2'} = V_{1'2',12}^* \quad (28)$$

も満たす。ここで大括弧 $[12]$ は 12 に関する反対称性を表す。和 $\sum_{[12]}$ は反対称成分のみについての和を表す。常に

$$\sum_{[12]} f([12]) = \frac{1}{2} \sum_{12} f([12]) \quad (29)$$

が成立する。複素 c-数 (ボソン) の補助場を導入して Stratonovich-Hubbard 変換する際に、ガウス積分の収束性より引力と斥力とでは Stratonovich-Hubbard 変換が異なる。つまり、ひとつの Stratonovich-Hubbard 変換で引力と斥力は同時にカバーできない。ここでは引力に対する Stratonovich-Hubbard 変換を考えたいので、予め扱う $V_{12,1'2'}$ を以下のように制限しておく。まず自由度 $[12]$ は何らかの“基底” $\varphi_i([12])$ で展開できるものとする：

$$\begin{aligned} f([12]) &= \sum_i f_i \varphi_i([12]), \\ \sum_{[12]} \varphi_i^*([12]) \varphi_j([12]) &\propto \delta_{ij} \\ \varphi_i([21]) &= -\varphi_i([12]) \end{aligned} \quad (30)$$

ここで“基底” $\varphi_i([12])$ の直交性は仮定するが規格化可能性は仮定しない。すると $V_{[12],[1'2']}$ は

$$V_{[12],[1'2']} = \sum_{ij} V_{ij} \varphi_i([12]) \varphi_j^*([1'2']) \quad (31)$$

と展開できる。 $V_{12,1'2'}$ のエルミト性より V_{ij} はエルミト行列である。よって固有値は実数である。引力が存在するチャンネル(基底)にのみ Stratonovich-Hubbard 変換が適用できる(斥力には別の Stratonovich-Hubbard 変換を適用)ので、引力であるチャンネルを予め規定する。つまり自由度 $[12]$ の部分空間 I が存在し、部分空間 I 内の行列 V_{ij} ($i, j \in I$)の固有値は全て負(ゼロもダメ)であるとする。よって次の形の相互作用ハミルトニアンを考える:

$$H_{int} = \sum_{ij \in I} V_{ij} \left(\sum_{[12]} \varphi_i([12]) c_1^\dagger c_2^\dagger \right) \left(\sum_{[1'2']} \varphi_j^*([1'2']) c_{2'} c_{1'} \right) \quad (32)$$

(ただし V_{ij} の固有値は全て負)

以下、 $V_{ij} \mapsto -V_{ij}$ と再定義しよう。結局、引力の Cooper チャンネルは一般的に次の表式となる:

$i \in I$ を引力のチャンネルのラベルとする。 V_{ij} の固有値を全て正とする。

$$H_{int} = - \sum_{ij \in I} V_{ij} \left(\sum_{[12]} \varphi_i([12]) c_1^\dagger c_2^\dagger \right) \left(\sum_{[1'2']} \varphi_j^*([1'2']) c_{2'} c_{1'} \right) \quad (33)$$

$$-S[c, c^*] = \int_0^\beta d\tau \left\{ \sum_{12} c_1^* (-\partial_\tau \delta_{12} - H_{12}) c_2 + \sum_{ij \in I} V_{ij} \left(\sum_{[12]} \varphi_i([12]) c_1^* c_2^* \right) \left(\sum_{[1'2']} \varphi_j^*([1'2']) c_{2'} c_{1'} \right) \right\} \quad (34)$$

チャンネルの集合 I 、及び、基底 $\varphi_i([12])$ については抽象的で分かりにくいのでいくつかの具体例で確認する。

3.1.1 具体例: s波

contact 型の引力ハミルトニアン

$$\begin{aligned} H_{int} &= -U \int d^3 \mathbf{x} \psi_\uparrow^\dagger(\mathbf{x}) \psi_\downarrow^\dagger(\mathbf{x}) \psi_\downarrow(\mathbf{x}) \psi_\uparrow(\mathbf{x}) \\ &= -\frac{U}{V} \sum_{\mathbf{k}\mathbf{k}'\mathbf{q}} c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\uparrow}^\dagger c_{-\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\downarrow}^\dagger c_{-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\downarrow} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\uparrow} \end{aligned} \quad (35)$$

を考えよう。並進対称性によりペアの重心運動量 \mathbf{q} は保存される。 $\psi_\alpha(\mathbf{x})$ と $c_{\mathbf{k}\alpha}$ の基底の変換は

$$\begin{aligned} \psi_\alpha(\mathbf{x}) &= \frac{1}{\sqrt{V}} \sum_{\mathbf{k}} c_{\mathbf{k}\alpha} e^{i\mathbf{k}\cdot\mathbf{x}} \\ c_{\mathbf{k}\alpha} &= \frac{1}{\sqrt{V}} \int d^3 \mathbf{x} \psi_\alpha(\mathbf{x}) e^{-i\mathbf{k}\cdot\mathbf{x}} \end{aligned} \quad (36)$$

である。変形して

$$\begin{aligned}
H_{int} &= -\frac{U}{V} \sum_{\mathbf{q}} \sum_{\mathbf{k}\mathbf{k}'} c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\uparrow}^\dagger c_{-\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\downarrow}^\dagger c_{-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\downarrow} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\uparrow} \\
&= -\frac{U}{V} \sum_{\mathbf{q}} \sum_{\mathbf{k}_1\mathbf{k}_2} \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}_1+\mathbf{k}_2} c_{\mathbf{k}_1\uparrow}^\dagger c_{\mathbf{k}_2\downarrow}^\dagger \sum_{\mathbf{k}'_1\mathbf{k}'_2} \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}'_1+\mathbf{k}'_2} c_{\mathbf{k}'_2\downarrow} c_{\mathbf{k}'_1\uparrow} \\
&= -\frac{U}{4V} \sum_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \delta_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \sum_{\mathbf{k}_1\alpha\mathbf{k}_2\beta} \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}_1+\mathbf{k}_2} (i\sigma_2)_{\alpha\beta} c_{\mathbf{k}_1\alpha}^\dagger c_{\mathbf{k}_2\beta}^\dagger \sum_{\mathbf{k}'_1\alpha'\mathbf{k}'_2\beta'} \delta_{\mathbf{q}',\mathbf{k}'_1+\mathbf{k}'_2} (i\sigma_2)_{\alpha'\beta'} c_{\mathbf{k}'_2\beta'} c_{\mathbf{k}'_1\alpha'} \\
&= -\frac{U}{V} \sum_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \delta_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \sum_{[(\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)]} \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}_1+\mathbf{k}_2} (i\sigma_2)_{\alpha\beta} c_{\mathbf{k}_1\alpha}^\dagger c_{\mathbf{k}_2\beta}^\dagger \sum_{[(\mathbf{k}'_1\alpha')(\mathbf{k}'_2\beta')]} \delta_{\mathbf{q}',\mathbf{k}'_1+\mathbf{k}'_2} (i\sigma_2)_{\alpha'\beta'} c_{\mathbf{k}'_2\beta'} c_{\mathbf{k}'_1\alpha'}
\end{aligned} \tag{37}$$

と書けるからチャンネルのラベルはクーパーペアの重心運動量 \mathbf{q} であり V_{ij} 及びチャンネルの基底 φ_i ([12]) は

$$H_{int} = -\frac{U}{4V} \sum_{\mathbf{q}\mathbf{k}\mathbf{k}'} (i\sigma_2)_{\alpha\beta} (i\sigma_2)_{\alpha'\beta'} c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\uparrow}^\dagger c_{\mathbf{k}-\frac{\mathbf{q}}{2}\beta}^\dagger c_{-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta'} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha'} \tag{38}$$

$$i \mapsto \mathbf{q} \tag{39}$$

$$V_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} = \frac{U}{V} \delta_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \tag{40}$$

$$\varphi_{\mathbf{q}}([(k_1\alpha)(k_2\beta)]) = \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}_1+\mathbf{k}_2} (i\sigma_2)_{\alpha\beta} \tag{41}$$

となる。反対称性

$$\varphi_{\mathbf{q}}([(k_1\alpha)(k_2\beta)]) = -\varphi_{\mathbf{q}}([(k_2\beta)(k_1\alpha)]) \tag{42}$$

に注意。

注意として、基底 $\varphi_{\mathbf{q}}([(k_1\alpha)(k_2\beta)])$ は規格化が出来ない：

$$\begin{aligned}
\sum_{[(k_1\alpha)(k_2\beta)]} \varphi_{\mathbf{q}}^*([(k_1\alpha)(k_2\beta)]) \varphi_{\mathbf{q}'}([(k_1\alpha)(k_2\beta)]) &= \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{k}_1\alpha\mathbf{k}_2\beta} \delta_{\mathbf{q}',\mathbf{k}_1+\mathbf{k}_2} (i\sigma_2)_{\alpha\beta} \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}_1+\mathbf{k}_2} (i\sigma_2)_{\alpha\beta} \\
&= \delta_{\mathbf{q},\mathbf{q}'} \sum_{\mathbf{k}_1}
\end{aligned} \tag{43}$$

φ_i ([12]) の規格化可能性を仮定しなかったのはこのためである。

また、引力のチャンネルにペアの重心運動量 $\mathbf{q} = \mathbf{0}$ しか存在しない場合は、対応する補助場の自由度は虚時間方向のみ： $\phi(\tau)$ であり、超伝導の空間方向のゆらぎが存在できない。

3.1.2 具体例：³He-B

contact 型の³He-B 相を誘起するのチャンネル

$$H_{int} = -\frac{U}{4V} \sum_{\mathbf{k}\mathbf{k}'\mathbf{q}} \left(\frac{\mathbf{k}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} \left(-i\sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{\mathbf{k}'}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha}^\dagger c_{-\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta}^\dagger c_{-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta'} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha'} \quad (44)$$

を考える。 V_{ij} 及び φ_i ([12]) は

$$\begin{aligned} H_{int} &= -\frac{U}{4V} \sum_{\mathbf{q}} \sum_{\mathbf{k}} \left(\frac{\mathbf{k}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha}^\dagger c_{-\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta}^\dagger \sum_{\mathbf{k}'} \left(-i\sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{\mathbf{k}'}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} c_{-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta'} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha'} \\ &= -\frac{U}{4V} \sum_{\mathbf{q}} \left[\sum_{\mathbf{k}_1\mathbf{k}_2} \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}_1+\mathbf{k}_2} \left(\frac{\mathbf{k}_1-\mathbf{k}_2}{2k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} c_{\mathbf{k}_1\alpha}^\dagger c_{\mathbf{k}_2\beta}^\dagger \right] \\ &\quad \left[\sum_{\mathbf{k}'_1\mathbf{k}'_2} \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}'_1+\mathbf{k}'_2} \left(-i\sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{\mathbf{k}'_1-\mathbf{k}'_2}{2k_F} \right)_{\alpha'\beta'} c_{\mathbf{k}'_2\beta'} c_{\mathbf{k}'_1\alpha'} \right] \\ &= -\frac{U}{4V} \sum_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \left[\sum_{\mathbf{k}_1\mathbf{k}_2} \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}_1+\mathbf{k}_2} \left(\frac{\mathbf{k}_1-\mathbf{k}_2}{2k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} c_{\mathbf{k}_1\alpha}^\dagger c_{\mathbf{k}_2\beta}^\dagger \right] \\ &\quad \left[\sum_{\mathbf{k}'_1\mathbf{k}'_2} \delta_{\mathbf{q}',\mathbf{k}'_1+\mathbf{k}'_2} \left(-i\sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{\mathbf{k}'_1-\mathbf{k}'_2}{2k_F} \right)_{\alpha'\beta'} c_{\mathbf{k}'_2\beta'} c_{\mathbf{k}'_1\alpha'} \right] \end{aligned} \quad (45)$$

より

$$H_{int} = -\frac{U}{4V} \sum_{\mathbf{k}\mathbf{k}'\mathbf{q}} \left(\frac{\mathbf{k}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} \left(-i\sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{\mathbf{k}'}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha}^\dagger c_{-\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta}^\dagger c_{-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta'} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha'} \quad (46)$$

$$i \mapsto \mathbf{q} \quad (47)$$

$$V_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} = \frac{U}{V} \delta_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \quad (48)$$

$$\varphi_{\mathbf{q}}([(\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)]) = \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}_1+\mathbf{k}_2} \left(\frac{\mathbf{k}_1-\mathbf{k}_2}{2k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} \quad (49)$$

$$\varphi_{\mathbf{q}}^*([(\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)]) = \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}_1+\mathbf{k}_2} \left(-i\sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{\mathbf{k}_1-\mathbf{k}_2}{2k_F} \right)_{\alpha\beta} \quad (50)$$

である。反対称性

$$\varphi_{\mathbf{q}}([(\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)]) = -\varphi_{\mathbf{q}}([(\mathbf{k}_2\beta)(\mathbf{k}_1\alpha)]) \quad (51)$$

に注意。

ついでにハミルトニアンの実空間表示を考える。接触型でなく

$$H_{int} = -\frac{1}{4V} \sum_{\mathbf{q}} v(\mathbf{q}) \sum_{\mathbf{k}} \left(\frac{\mathbf{k}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha}^\dagger c_{-\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta}^\dagger \sum_{\mathbf{k}'} \left(-i\sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{\mathbf{k}'}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} c_{-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta'} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha'} \quad (52)$$

とする。

$$\begin{aligned} & \sum_{\mathbf{k}} \left(\frac{\mathbf{k}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha}^\dagger c_{-\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta}^\dagger \\ &= \sum_{\mathbf{k}} \left(\frac{\mathbf{k}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} \frac{1}{\sqrt{V}} \int d\mathbf{x} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) e^{i(\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2})\cdot\mathbf{x}} \frac{1}{\sqrt{V}} \int d\mathbf{x}' \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}') e^{i(-\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2})\cdot\mathbf{x}'} \\ &= \frac{1}{V} \sum_{\mathbf{k}} \int d\mathbf{x} \int d\mathbf{x}' \frac{k_i}{k_F} (\sigma_i i\sigma_2)_{\alpha\beta} e^{i\mathbf{k}\cdot(\mathbf{x}-\mathbf{x}')} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}') e^{i\mathbf{q}\cdot\frac{\mathbf{x}+\mathbf{x}'}{2}} \\ &= \frac{1}{V} \sum_{\mathbf{k}} \int d\mathbf{R} \int d\mathbf{r} \frac{k_i}{k_F} (\sigma_i i\sigma_2)_{\alpha\beta} e^{i\mathbf{k}\cdot\mathbf{r}} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{R}+\mathbf{r}/2) \psi_\beta^\dagger(\mathbf{R}-\mathbf{r}/2) e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}} \\ &= \frac{1}{V} \sum_{\mathbf{k}} \int d\mathbf{R} \int d\mathbf{r} \left(\frac{-i\partial_{r_i}}{k_F} e^{i\mathbf{k}\cdot\mathbf{r}} \right) (\sigma_i i\sigma_2)_{\alpha\beta} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{R}+\mathbf{r}/2) \psi_\beta^\dagger(\mathbf{R}-\mathbf{r}/2) e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}} \\ &= \int d\mathbf{R} \int d\mathbf{r} \left(\frac{-i\partial_{r_i}}{k_F} \delta(\mathbf{r}) \right) (\sigma_i i\sigma_2)_{\alpha\beta} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{R}+\mathbf{r}/2) \psi_\beta^\dagger(\mathbf{R}-\mathbf{r}/2) e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}} \\ &= \int d\mathbf{R} \int d\mathbf{r} \delta(\mathbf{r}) (\sigma_i i\sigma_2)_{\alpha\beta} \left(\frac{i\partial_{r_i}}{k_F} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{R}+\mathbf{r}/2) \psi_\beta^\dagger(\mathbf{R}-\mathbf{r}/2) + \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{R}+\mathbf{r}/2) \frac{i\partial_{r_i}}{k_F} \psi_\beta^\dagger(\mathbf{R}-\mathbf{r}/2) \right) e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}} \\ &= \int d\mathbf{x} (\sigma_i i\sigma_2)_{\alpha\beta} \left(\frac{i\partial_i}{2k_F} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) - \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \frac{i\partial_i}{2k_F} \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) \right) e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{x}} \\ &= \int d\mathbf{x} (\sigma_i i\sigma_2)_{\alpha\beta} \left(\psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \frac{-i\overleftrightarrow{\partial}_i}{k_F} \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) \right) e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{x}} \\ &= \int d\mathbf{x} \left[\psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \left(\frac{-i\overleftrightarrow{\partial}_i}{k_F} (\sigma_i i\sigma_2)_{\alpha\beta} \right) \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) \right] e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{x}} \\ &= \int d\mathbf{x} \left[\psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \left(\frac{-i\overleftrightarrow{\nabla}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) \right] e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{x}} \end{aligned} \quad (53)$$

$$\begin{aligned}
& \sum_{\mathbf{k}'} \left(-i\sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{\mathbf{k}'}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} c_{-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta'} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha'} \\
&= \sum_{\mathbf{k}'} \left(-i\sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{\mathbf{k}'}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} \frac{1}{\sqrt{V}} \int d\mathbf{x}' \psi_{\beta'}(\mathbf{x}') e^{-i(-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2})\cdot\mathbf{x}'} \frac{1}{\sqrt{V}} \int d\mathbf{x} \psi_{\alpha'}(\mathbf{x}) e^{-i(\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2})\cdot\mathbf{x}} \\
&= \frac{1}{V} \sum_{\mathbf{k}'} \int d\mathbf{x} \int d\mathbf{x}' \frac{k'_i}{k_F} (-i\sigma_2 \sigma_i)_{\alpha'\beta'} e^{-i\mathbf{k}'\cdot(\mathbf{x}-\mathbf{x}')} \psi_{\beta'}(\mathbf{x}') \psi_{\alpha'}(\mathbf{x}) e^{-i\mathbf{q}\cdot\frac{\mathbf{x}+\mathbf{x}'}{2}} \\
&= \frac{1}{V} \sum_{\mathbf{k}'} \int d\mathbf{R} \int d\mathbf{r} \frac{k'_i}{k_F} (-i\sigma_2 \sigma_i)_{\alpha'\beta'} e^{-i\mathbf{k}'\cdot\mathbf{r}} \psi_{\beta'}(\mathbf{R}-\mathbf{r}/2) \psi_{\alpha'}(\mathbf{R}+\mathbf{r}/2) e^{-i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}} \\
&= \frac{1}{V} \sum_{\mathbf{k}} \int d\mathbf{R} \int d\mathbf{r} \left(\frac{i\partial_{r_i}}{k_F} e^{-i\mathbf{k}\cdot\mathbf{r}} \right) (-i\sigma_2 \sigma_i)_{\alpha'\beta'} \psi_{\beta'}(\mathbf{R}-\mathbf{r}/2) \psi_{\alpha'}(\mathbf{R}+\mathbf{r}/2) e^{-i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}} \\
&= \int d\mathbf{R} \int d\mathbf{r} \left(\frac{i\partial_{r_i}}{k_F} \delta(\mathbf{r}) \right) (-i\sigma_2 \sigma_i)_{\alpha'\beta'} \psi_{\beta'}(\mathbf{R}-\mathbf{r}/2) \psi_{\alpha'}(\mathbf{R}+\mathbf{r}/2) e^{-i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}} \\
&= \int d\mathbf{R} \int d\mathbf{r} \delta(\mathbf{r}) (-i\sigma_2 \sigma_i)_{\alpha'\beta'} \\
&\quad \left(\frac{-i\partial_{r_i}}{k_F} \psi_{\beta'}(\mathbf{R}-\mathbf{r}/2) \psi_{\alpha'}(\mathbf{R}+\mathbf{r}/2) + \psi_{\beta'}(\mathbf{R}-\mathbf{r}/2) \frac{-i\partial_{r_i}}{k_F} \psi_{\alpha'}(\mathbf{R}+\mathbf{r}/2) \right) e^{-i\mathbf{q}\cdot\mathbf{R}} \\
&= \int d\mathbf{x} (-i\sigma_2 \sigma_i)_{\alpha'\beta'} \left(\frac{i\partial_i}{2k_F} \psi_{\beta'}(\mathbf{x}) \psi_{\alpha'}(\mathbf{x}) - \psi_{\beta'}(\mathbf{x}) \frac{i\partial_i}{2k_F} \psi_{\alpha'}(\mathbf{x}) \right) e^{-i\mathbf{q}\cdot\mathbf{x}} \\
&= \int d\mathbf{x} (-i\sigma_2 \sigma_i)_{\alpha'\beta'} \left(\psi_{\beta'}(\mathbf{x}) \frac{-i\overleftrightarrow{\partial}_i}{k_F} \psi_{\alpha'}(\mathbf{x}) \right) e^{-i\mathbf{q}\cdot\mathbf{x}} \\
&= \int d\mathbf{x} \left[\psi_{\beta'}(\mathbf{x}) \left(\frac{-i\overleftrightarrow{\partial}_i}{k_F} (-i\sigma_2 \sigma_i)_{\alpha'\beta'} \right) \psi_{\alpha'}(\mathbf{x}) \right] e^{-i\mathbf{q}\cdot\mathbf{x}} \\
&= \int d\mathbf{x} \left[\psi_{\beta'}(\mathbf{x}) \left(-i\sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{-i\overleftrightarrow{\nabla}}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} \psi_{\alpha'}(\mathbf{x}) \right] e^{-i\mathbf{q}\cdot\mathbf{x}}
\end{aligned} \tag{54}$$

と変形できる。ここで

$$f(\mathbf{x}) \left(-i\overleftrightarrow{\nabla} \right) g(\mathbf{x}) = \frac{i\nabla f(\mathbf{x})g(\mathbf{x}) - f(\mathbf{x})i\nabla g(\mathbf{x})}{2} \tag{55}$$

とした。すると

$$\begin{aligned}
H_{int} &= -\frac{1}{4} \sum_{\mathbf{q}} v(\mathbf{q}) \sum_{\mathbf{k}} \left(\frac{\mathbf{k}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i \sigma_2 \right)_{\alpha\beta} c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha}^\dagger c_{-\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta}^\dagger \sum_{\mathbf{k}'} \left(-i \sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{\mathbf{k}'}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} c_{-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta'} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha'} \\
&= -\frac{1}{4} \sum_{\mathbf{q}} v(\mathbf{q}) \\
&\quad \int d\mathbf{x} \left[\psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \left(\frac{-i \overleftrightarrow{\nabla}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i \sigma_2 \right)_{\alpha\beta} \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) \right] e^{i\mathbf{q}\cdot\mathbf{x}} \int d\mathbf{y} \left[\psi_{\beta'}(\mathbf{y}) \left(-i \sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{-i \overleftrightarrow{\nabla}}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} \psi_{\alpha'}(\mathbf{y}) \right] e^{-i\mathbf{q}\cdot\mathbf{y}} \\
&= -\frac{1}{4} \int d\mathbf{x} \int d\mathbf{y} \sum_{\mathbf{q}} v(\mathbf{q}) e^{i\mathbf{q}\cdot(\mathbf{x}-\mathbf{y})} \\
&\quad \left[\psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \left(\frac{-i \overleftrightarrow{\nabla}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i \sigma_2 \right)_{\alpha\beta} \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) \right] \left[\psi_{\beta'}(\mathbf{y}) \left(-i \sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{-i \overleftrightarrow{\nabla}}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} \psi_{\alpha'}(\mathbf{y}) \right] \\
&= -\frac{1}{4} \int d\mathbf{x} \int d\mathbf{y} v(\mathbf{x}-\mathbf{y}) \left[\psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \left(\frac{-i \overleftrightarrow{\nabla}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i \sigma_2 \right)_{\alpha\beta} \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) \right] \left[\psi_{\beta'}(\mathbf{y}) \left(-i \sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{-i \overleftrightarrow{\nabla}}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} \psi_{\alpha'}(\mathbf{y}) \right] \tag{56}
\end{aligned}$$

ここで

$$v(\mathbf{x}-\mathbf{y}) = \sum_{\mathbf{q}} v(\mathbf{q}) e^{i\mathbf{q}\cdot(\mathbf{x}-\mathbf{y})} \tag{57}$$

である。特に $v(\mathbf{q}) = U/V$ のときは

$$\begin{aligned}
H_{int} &= -\frac{U}{4V} \sum_{\mathbf{q}} \sum_{\mathbf{k}} \left(\frac{\mathbf{k}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i \sigma_2 \right)_{\alpha\beta} c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha}^\dagger c_{-\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta}^\dagger \sum_{\mathbf{k}'} \left(-i \sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{\mathbf{k}'}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} c_{-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta'} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha'} \\
&= -\frac{U}{4} \int d\mathbf{x} \left[\psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \left(\frac{-i \overleftrightarrow{\nabla}}{k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i \sigma_2 \right)_{\alpha\beta} \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) \right] \left[\psi_{\beta'}(\mathbf{x}) \left(-i \sigma_2 \boldsymbol{\sigma} \cdot \frac{-i \overleftrightarrow{\nabla}}{k_F} \right)_{\alpha'\beta'} \psi_{\alpha'}(\mathbf{x}) \right] \tag{58}
\end{aligned}$$

3.2 Stratonovich-Hubbard 変換

複素ボソン場の補助場 $\phi_i(\tau)$ ($i \in I$) を導入する。基底の添字 $i \in I$ が補助場の自由度となる。Stratonovich-Hubbard 変換は次のように実行出来る：

$$\begin{aligned}
& e^{-S_{int}} \\
&= \exp \left(\int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} V_{ij} \left(\sum_{[12]} \varphi_i([12]) c_1^* c_2^* \right) \left(\sum_{[1'2']} \varphi_j^*([1'2']) c_{2'} c_{1'} \right) \right) \\
&= \int D\phi^* D\phi \exp \left(- \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^* V_{ij} \phi_j + \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} V_{ij} \left(\sum_{[12]} \varphi_i([12]) c_1^* c_2^* \right) \left(\sum_{[1'2']} \varphi_j^*([1'2']) c_{2'} c_{1'} \right) \right) \\
&= \int D\phi^* D\phi \exp \left\{ - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \left(\phi_i^* + \sum_{[12]} \varphi_i([12]) c_1^* c_2^* \right) V_{ij} \left(\phi_j + \sum_{[1'2']} \varphi_j^*([1'2']) c_{2'} c_{1'} \right) \right. \\
&\quad \left. + \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} V_{ij} \left(\sum_{[12]} \varphi_i([12]) c_1^* c_2^* \right) \left(\sum_{[1'2']} \varphi_j^*([1'2']) c_{2'} c_{1'} \right) \right\} \\
&= \int D\phi^* D\phi \exp \left(- \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^* V_{ij} \phi_j \right. \\
&\quad \left. - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^* V_{ij} \sum_{[1'2']} \varphi_j^*([1'2']) c_{2'} c_{1'} - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \sum_{[12]} \varphi_i([12]) c_1^* c_2^* V_{ij} \phi_j \right)
\end{aligned} \tag{59}$$

ここで積分 $\int D\phi^* D\phi = \int D\phi_i^* D\phi_i$ は [12] の自由度について取るのではなく、 $i \in I$ についてのみ取る。ギャップ関数 $\Delta_i(\tau)$ ($i \in I$) を

$$\Delta_i = \sum_{j \in I} V_{ij} \phi_j \tag{60}$$

で定義する。複素共役は V_{ij} のエルミト性 $V_{ij} = V_{ji}^*$ より

$$\Delta_j^* = \sum_{i \in I} \phi_i^* V_{ij} \tag{61}$$

となる。すると

$$\begin{aligned}
e^{-S_{int}} &= \int D\phi^* D\phi \exp \left(- \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^* V_{ij} \phi_j \right. \\
&\quad \left. - \int_0^\beta d\tau \sum_{j \in I} \Delta_j^* \sum_{[1'2']} \varphi_j^*([1'2']) c_{2'} c_{1'} - \int_0^\beta d\tau \sum_{i \in I} \sum_{[12]} \varphi_i([12]) c_1^* c_2^* \Delta_i \right) \\
&= \int D\phi^* D\phi \exp \left(- \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^* V_{ij} \phi_j \right. \\
&\quad \left. - \int_0^\beta d\tau \sum_{[12]} \sum_{i \in I} \Delta_i^* \varphi_i^*([21]) c_1 c_2 - \int_0^\beta d\tau \sum_{[12]} \sum_{i \in I} \Delta_i \varphi_i([12]) c_1^* c_2^* \right)
\end{aligned} \tag{62}$$

分配関数は

$$\begin{aligned}
Z &= \int Dc^* Dc e^{-S[c]} \\
&= \int Dc^* Dc D\phi^* D\phi \exp \left(\int_0^\beta d\tau \sum_{12} c_1^* (-\partial_\tau \delta_{12} - H_{12}) c_2 - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^* V_{ij} \phi_j \right. \\
&\quad \left. - \int_0^\beta d\tau \sum_{[12]} \sum_{i \in I} \Delta_i^* \varphi_i^*([21]) c_1 c_2 - \int_0^\beta d\tau \sum_{[12]} \sum_{i \in I} \Delta_i \varphi_i([12]) c_1^* c_2^* \right) \\
&= \int Dc^* Dc D\phi^* D\phi \\
&\quad \exp \left(\frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau \sum_{12} (c_1^*, c_1) \begin{pmatrix} -\partial_\tau \delta_{12} - H_{12} & -\sum_{i \in I} \Delta_i \varphi_i([12]) \\ -\sum_{i \in I} \Delta_i^* \varphi_i^*([21]) & -\partial_\tau \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} c_2 \\ c_2^* \end{pmatrix} - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^* V_{ij} \phi_j \right) \\
&= \int Dc^* Dc D\phi^* D\phi \exp \left(\frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau \sum_{12} \Psi_1^\dagger G_{12}^{-1} \Psi_2 - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^* V_{ij} \phi_j \right) \\
&= \int D\phi^* D\phi \exp \left(\frac{1}{2} \text{Tr} \ln \left[\frac{1}{2} G_{12}^{-1} \right] - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^* V_{ij} \phi_j \right)
\end{aligned} \tag{63}$$

ここで南部表示

$$\Psi_1 = \begin{pmatrix} c_1 \\ c_1^* \end{pmatrix}, \quad \Psi_1^* = \begin{pmatrix} c_1^* \\ c_1 \end{pmatrix} \quad (\Psi_1^\dagger = (c_1^*, c_1)) \tag{64}$$

を導入した。(この選び方は実空間表示では conventional だが運動量空間表示では unconventional) また

$$G_{12}^{-1}(\tau_1, \tau_2) = \begin{pmatrix} -\partial_\tau \delta_{12} - H_{12} & -\sum_{i \in I} \Delta_i \varphi_i([12]) \\ -\sum_{i \in I} \Delta_i^* \varphi_i^*([21]) & -\partial_\tau \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \tag{65}$$

である。また、 Tr ln の前の係数 $\frac{1}{2}$ は南部スピノルの”マヨラナ”性：

$$\Psi_1^* = \tau_1 \Psi_1 \quad (66)$$

より。

さて V_{ij} の固有値は全て正と仮定した。特に V_{ij} 特異ではないから逆行列が取れる。そこで、補助場を ϕ でなく Δ で作用を書き換えよう。 $\phi \mapsto \Delta = V\phi$ の測度の変化 (Jacobian) は定数なので測度 $D\Delta^* D\Delta$ に組み込む。また $\frac{1}{2}\text{Tr ln} [\frac{1}{2}]$ は定数なので落とす。結局分配関数は

$$\begin{aligned} Z &= \int D\Delta_i^* D\Delta_i e^{-\tilde{S}[\Delta_i]} \\ &= \int D\Delta_i^* D\Delta_i \exp \left(\frac{1}{2} \text{Tr ln} [G^{-1}[\Delta_i]] - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j \right) \end{aligned} \quad (67)$$

$$\tilde{S}[\Delta_i] = -\frac{1}{2} \text{Tr ln} [G^{-1}[\Delta_i]] + \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j \quad (68)$$

$$[G^{-1}[\Delta_i]]_{12}(\tau_1, \tau_2) = \begin{pmatrix} -\partial_{\tau_1} \delta_{12} - H_{12} & -\Delta_{[12]} \\ -\Delta_{[21]}^* & -\partial_{\tau_1} \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \quad (69)$$

$$\begin{aligned} \Delta_{[12]} &= \sum_{i \in I} \Delta_i \varphi_i([12]), \\ \Delta_{[21]}^* &= \sum_{i \in I} \Delta_i^* \varphi_i^*([21]), \end{aligned} \quad (70)$$

と書ける。

3.3 Stratonovich-Hubbard 変換 (運動量空間表示)

前節の Stratonovich-Hubbard 変換は実空間表示に対しては適した定義だが運動量空間表示に対しては、通常、南部表示を空間的に局所的に定義するため、南部表示の定義を変更した方が一般的。

分配関数の表式：

$$\begin{aligned}
 Z &= \int Dc^* Dc e^{-S[c]} \\
 &= \int Dc^* Dc D\phi^* D\phi \exp \left(\int_0^\beta d\tau \sum_{12} c_1^* (-\partial_\tau \delta_{12} - H_{12}) c_2 - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^* V_{ij} \phi_j \right. \\
 &\quad \left. - \int_0^\beta d\tau \sum_{[12]} \sum_{i \in I} \Delta_i^* \varphi_i^* ([21]) c_1 c_2 - \int_0^\beta d\tau \sum_{[12]} \sum_{i \in I} \Delta_i \varphi_i ([12]) c_1^* c_2^* \right)
 \end{aligned} \tag{71}$$

までは共通。ここで具体的な表示：

$$1 = (\mathbf{k}_1 \alpha), \quad 2 = (\mathbf{k}_2 \beta) \tag{72}$$

に移る。すると

$$\begin{aligned}
Z &= \int Dc^* Dc D\phi^* D\phi \\
&\exp \left(\int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2 \alpha \beta} c_{\mathbf{k}_1 \alpha}^*(\tau) (-\partial_\tau \delta_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2} \delta_{\alpha \beta} - H_{\alpha \beta}(\mathbf{k}_1, \mathbf{k}_2)) c_{\mathbf{k}_2 \beta}(\tau) - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^*(\tau) V_{ij} \phi_j(\tau) \right. \\
&\quad - \frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2 \alpha \beta} \sum_{i \in I} \Delta_i^*(\tau) \varphi_i^*([\mathbf{k}_2 \beta)(\mathbf{k}_1 \alpha)]) c_{\mathbf{k}_1 \alpha}(\tau) c_{\mathbf{k}_2 \beta}(\tau) \\
&\quad \left. - \frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2 \alpha \beta} \sum_{i \in I} \Delta_i(\tau) \varphi_i([\mathbf{k}_1 \alpha)(\mathbf{k}_2 \beta)]) c_{\mathbf{k}_1 \alpha}^*(\tau) c_{\mathbf{k}_2 \beta}^*(\tau) \right) \\
&= \int Dc^* Dc D\phi^* D\phi \exp \left(- \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^*(\tau) V_{ij} \phi_j(\tau) \right. \\
&\quad + \frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2 \alpha \beta} c_{\mathbf{k}_1 \alpha}^*(\tau) (-\partial_\tau \delta_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2} \delta_{\alpha \beta} - H_{\alpha \beta}(\mathbf{k}_1, \mathbf{k}_2)) c_{\mathbf{k}_2 \beta}(\tau) \\
&\quad + \frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2 \alpha \beta} c_{-\mathbf{k}_1 \alpha}(\tau) (-\partial_\tau \delta_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2} \delta_{\alpha \beta} + H_{\beta \alpha}(-\mathbf{k}_2, -\mathbf{k}_1)) c_{-\mathbf{k}_2 \beta}^*(\tau) \\
&\quad - \frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2 \alpha \beta} \sum_{i \in I} \Delta_i^*(\tau) \varphi_i^*([\mathbf{k}_2 \beta)(-\mathbf{k}_1 \alpha)]) c_{-\mathbf{k}_1 \alpha}(\tau) c_{\mathbf{k}_2 \beta}(\tau) \\
&\quad \left. - \frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2 \alpha \beta} \sum_{i \in I} \Delta_i(\tau) \varphi_i([\mathbf{k}_1 \alpha)(-\mathbf{k}_2 \beta)]) c_{\mathbf{k}_1 \alpha}^*(\tau) c_{-\mathbf{k}_2 \beta}^*(\tau) \right) \\
\end{aligned} \tag{73}$$

ここで南部表示

$$\Psi_{\mathbf{k}\alpha}(\tau) = \begin{pmatrix} c_{\mathbf{k}\alpha}(\tau) \\ c_{-\mathbf{k}\alpha}^*(\tau) \end{pmatrix}, \quad \Psi_{\mathbf{k}\alpha}^*(\tau) = \begin{pmatrix} c_{\mathbf{k}\alpha}^*(\tau) \\ c_{-\mathbf{k}\alpha}(\tau) \end{pmatrix} \tag{74}$$

を定義すると

$$\begin{aligned}
Z &= \int Dc^* Dc D\phi^* D\phi \exp \left(- \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i^*(\tau) V_{ij} \phi_j(\tau) \right. \\
&\quad \left. + \frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2 \alpha \beta} \right. \\
&\quad \left. (c_{\mathbf{k}_1 \alpha}^*, c_{-\mathbf{k}_1 \alpha}) \begin{pmatrix} -\partial_\tau \delta_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2} \delta_{\alpha \beta} - H_{\alpha \beta}(\mathbf{k}_1, \mathbf{k}_2) & -\sum_{i \in I} \Delta_i(\tau) \varphi_i([\mathbf{k}_1 \alpha)(-\mathbf{k}_2 \beta)] \\ -\sum_{i \in I} \Delta_i^*(\tau) \varphi_i^*([\mathbf{k}_2 \beta)(-\mathbf{k}_1 \alpha)] & -\partial_\tau \delta_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2} \delta_{\alpha \beta} + H_{\beta \alpha}(-\mathbf{k}_2, -\mathbf{k}_1) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} c_{\mathbf{k}_2 \beta} \\ c_{-\mathbf{k}_2 \beta}^* \end{pmatrix} \right) \\
&= \int Dc^* Dc D\phi^* D\phi \exp \left(- \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^*(\tau) V_{ij}^{-1} \Delta_j(\tau) \right. \\
&\quad \left. + \frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2 \alpha \beta} \Psi_{\mathbf{k}_1 \alpha}^\dagger(\tau) G_{\alpha \beta}^{-1}(\mathbf{k}_1, \mathbf{k}_2, \tau; \Delta, \Delta^*) \Psi_{\mathbf{k}_2 \beta}(\tau) \right) \\
&= \int Dc^* Dc D\phi^* D\phi \exp \left(- \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^*(\tau) V_{ij}^{-1} \Delta_j(\tau) \right. \\
&\quad \left. + \frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau_1 \int_0^\beta d\tau_2 \sum_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2 \alpha \beta} \Psi_{\mathbf{k}_1 \alpha}^\dagger(\tau_1) G_{\alpha \beta}^{-1}(\mathbf{k}_1 \tau_1, \mathbf{k}_2 \tau_2; \Delta, \Delta^*) \Psi_{\mathbf{k}_2 \beta}(\tau_2) \right) \\
&= \int D\Delta^* D\Delta \exp \left(- \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^*(\tau) V_{ij}^{-1} \Delta_j(\tau) + \frac{1}{2} \text{TrLn} G^{-1}[\Delta, \Delta^*] \right)
\end{aligned} \tag{75}$$

となる。 $G^{-1}[\Delta, \Delta^*]$ は

$$\begin{aligned}
&G_{\alpha \beta}^{-1}(\mathbf{k}_1 \tau_1, \mathbf{k}_2 \tau_2; \Delta, \Delta^*) \\
&= \begin{pmatrix} -\partial_{\tau_1} \delta_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2} \delta_{\alpha \beta} - H_{\alpha \beta}(\mathbf{k}_1, \mathbf{k}_2) & -\sum_{i \in I} \Delta_i(\tau_1) \varphi_i([\mathbf{k}_1 \alpha)(-\mathbf{k}_2 \beta)] \\ -\sum_{i \in I} \Delta_i^*(\tau_1) \varphi_i^*([\mathbf{k}_2 \beta)(-\mathbf{k}_1 \alpha)] & -\partial_{\tau_1} \delta_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2} \delta_{\alpha \beta} + H_{\beta \alpha}(-\mathbf{k}_2, -\mathbf{k}_1) \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2)
\end{aligned} \tag{76}$$

である。

まとめ：

$$\begin{aligned}
Z &= \int D\Delta^* D\Delta e^{-\tilde{S}[\Delta, \Delta^*]} \\
&= \int D\Delta^* D\Delta \exp \left(- \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^*(\tau) V_{ij}^{-1} \Delta_j(\tau) + \frac{1}{2} \text{TrLn} G^{-1}[\Delta, \Delta^*] \right) \quad (77)
\end{aligned}$$

$$\tilde{S}[\Delta, \Delta^*] = \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^*(\tau) V_{ij}^{-1} \Delta_j(\tau) - \frac{1}{2} \text{TrLn} G^{-1}[\Delta, \Delta^*] \quad (78)$$

$$\begin{aligned}
&G_{\alpha\beta}^{-1}(\mathbf{k}_1\tau_1, \mathbf{k}_2\tau_2; \Delta, \Delta^*) \\
&= \begin{pmatrix} -\partial_{\tau_1} \delta_{\mathbf{k}_1\mathbf{k}_2} \delta_{\alpha\beta} - H_{\alpha\beta}(\mathbf{k}_1, \mathbf{k}_2) & -\sum_{i \in I} \Delta_i(\tau_1) \varphi_i([\mathbf{k}_1\alpha)(-\mathbf{k}_2\beta)] \\ -\sum_{i \in I} \Delta_i^*(\tau_1) \varphi_i^*([\mathbf{k}_2\beta)(-\mathbf{k}_1\alpha)] & -\partial_{\tau_1} \delta_{\mathbf{k}_1\mathbf{k}_2} \delta_{\alpha\beta} + H_{\beta\alpha}(-\mathbf{k}_2, -\mathbf{k}_1) \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \quad (79)
\end{aligned}$$

V_{ij} と $\varphi_i([\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)]$ の具体例を付記する。

contact s 波 :

$$V_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} = \frac{U}{V} \delta_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \quad (V \text{ は体積}) \quad (80)$$

$$\varphi_{\mathbf{q}}([\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)] = \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{k}_1 + \mathbf{k}_2} (i\sigma_2)_{\alpha\beta} \quad (81)$$

contact BW :

$$V_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} = \frac{U}{V} \delta_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \quad (V \text{ は体積}) \quad (82)$$

$$\varphi_{\mathbf{q}}([\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)] = \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{k}_1 + \mathbf{k}_2} \left(\frac{\mathbf{k}_1 - \mathbf{k}_2}{2k_F} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} \quad (83)$$

もしくは

$$\varphi_{\mathbf{q}}([\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)] = \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{k}_1 + \mathbf{k}_2} \left(\frac{\mathbf{k}_1 - \mathbf{k}_2}{|\mathbf{k}_1 - \mathbf{k}_2|} \cdot \boldsymbol{\sigma} i\sigma_2 \right)_{\alpha\beta} \quad (84)$$

contact spin singlet (lm) 波 :

$$V_{\mathbf{q}\mathbf{q}'}^{lm, l'm'} = \frac{U}{V} \delta_{lm, l'm'} \delta_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \quad (V \text{ は体積}) \quad (85)$$

$$\varphi_{\mathbf{q}}^{lm}([\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)] = \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{k}_1 + \mathbf{k}_2} Y_{lm} \left(\frac{\mathbf{k}_1 - \mathbf{k}_2}{|\mathbf{k}_1 - \mathbf{k}_2|} \right) (i\sigma_2)_{\alpha\beta} \quad (l \in \text{even}) \quad (86)$$

contact spin triplet (lm) 波 :

$$V_{\mathbf{q}\mathbf{q}'}^{jlm, j'l'm'} = \frac{U}{V} \delta_{jj'} \delta_{lm, l'm'} \delta_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \quad (V \text{ は体積}) \quad (87)$$

$$\varphi_{\mathbf{q}}^{jlm}([\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)] = \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{k}_1 + \mathbf{k}_2} Y_{lm} \left(\frac{\mathbf{k}_1 - \mathbf{k}_2}{|\mathbf{k}_1 - \mathbf{k}_2|} \right) (\sigma_j i\sigma_2)_{\alpha\beta} \quad (l \in \text{odd}) \quad (88)$$

3.4 有効作用

超伝導オーダーを抽出する複素なプローブ場 $J_i(\tau), J_i^*(\tau)$ を導入し、外場中の分配関数 $Z[J, J^*]$ を定義：

$$\begin{aligned} Z[J, J^*] &= e^{-W[J, J^*]} \\ &= \int D\Delta_i^* D\Delta_i e^{-\tilde{S}[\Delta, \Delta^*, J, J^*]} \\ &= \int D\Delta_i^* D\Delta_i \exp \left(\frac{1}{2} \text{Tr} \ln [G^{-1}[\Delta_i]] - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j - \int_0^\beta d\tau \sum_i (J_i^* \Delta_i + J_i \Delta_i^*) \right) \end{aligned} \quad (89)$$

ここで $W[J, J^*]$ は連結 Green 関数の生成汎関数であり、外場中の自由エネルギーに対応する ($\beta F = W$)。 J, J^* が与えられると外場中のオーダーパラメータの期待値が与えられる：

$$\bar{\Delta}_i(\tau) = \langle \Delta_i(\tau) \rangle_{J, J^*} = - \frac{\delta W[J, J^*]}{\delta J_i^*(\tau)} = \frac{1}{Z[J, J^*]} \frac{\delta Z[J, J^*]}{\delta J_i^*(\tau)} \quad (90)$$

これを逆解きしてオーダーパラメータ $\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*$ が与えられたとき J, J^* が決まると仮定する：

$$\begin{aligned} J &= J[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*], \\ J^* &= J^*[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*] \end{aligned} \quad (91)$$

有効作用 $\Gamma[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*]$ は $W[J, J^*]$ の Legendre 変換として定義する：

$$\Gamma[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*] := W \left[J[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*], J^*[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*] \right] + \int_0^\beta d\tau \sum_{i \in I} (\bar{\Delta}_i J_i^*[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*] + \bar{\Delta}_i^* J_i[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*]) \quad (92)$$

$\Gamma[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*]$ は Gibbs 自由エネルギーに対応する ($\beta G_{Gibbs} = \Gamma$)。式 (90) に双対な関係式は

$$J_i(\tau)[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*] = \frac{\delta \Gamma[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*]}{\delta \bar{\Delta}_i^*(\tau)} \quad (93)$$

実際に実現される Δ の期待値は外場がゼロの場合である。よってギャップ方程式

$$\frac{\delta \Gamma[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*]}{\delta \bar{\Delta}_i^*(\tau)} = 0 \quad (94)$$

を得る。この方程式は U(1) 対称性を破っていないことに注意。

式 (94) は熱・量子ゆらぎを全て取り入れたギャップ方程式である。 ϕ^4 のような自由場 + 相互作用の作用の場合には tree レベルの有効作用はラグランジアンそのものである。いま Δ のラグランジアンは高次まで含めると非常に複雑であり、この場合も tree レベルの有効作用がラグランジアンに一致するかどうかについては僕は知らない。もし一致するなら (鞍点近似 $Z \sim e^{-\tilde{S}[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*]}$)

$$\Gamma[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*] = \tilde{S}[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*] + O(\text{ゆらぎ}) \quad (95)$$

となる。これから平均場のギャップ方程式

$$\frac{\delta \tilde{S}[\bar{\Delta}, \bar{\Delta}^*]}{\delta \bar{\Delta}_i^*(\tau)} = 0 \quad (96)$$

を得る。

3.4.1 1 loop (Gauss ゆらぎ)

3.5 ギャップ方程式 (平均場)

$$\tilde{S}[\Delta, \Delta^*] = -\frac{1}{2} \text{Tr} \ln [G^{-1}[\Delta, \Delta^*]] + \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j \quad (97)$$

の鞍点方程式を導出しよう。ここでは S が 2 つの実関数 $\Delta_i(\tau), \Delta_i^*(\tau)$ の汎関数であることを明示している。 $S[\Delta, \Delta^*]$ を $\Delta_i^*(\tau)$ で汎関数微分して

$$\frac{\delta S_{GL}[\Delta, \Delta^*]}{\delta \Delta_i^*(\tau)} = -\frac{1}{2} \text{Tr} \left[G[\Delta, \Delta^*] \frac{\delta G^{-1}[\Delta, \Delta^*]}{\delta \Delta_i^*(\tau)} \right] + V_{ij}^{-1} \Delta_j(\tau) \quad (98)$$

ここで

$$\begin{aligned} \frac{\delta G^{-1}[\Delta, \Delta^*]}{\delta \Delta_i^*(\tau)} &= \frac{\delta}{\delta \Delta_i^*(\tau)} \begin{pmatrix} -\partial_{\tau_1} \delta_{12} - H_{12} & -\Delta_{[12]}(\tau_1) \\ -\Delta_{[21]}^*(\tau_1) & -\partial_{\tau_1} \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \\ &= \frac{\delta}{\delta \Delta_i^*(\tau)} \begin{pmatrix} -\partial_{\tau_1} \delta_{12} - H_{12} & -\Delta_{[12]}(\tau_1) \\ \Delta_{[12]}^*(\tau_1) & -\partial_{\tau_1} \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \\ &= \frac{\delta}{\delta \Delta_i^*(\tau)} \begin{pmatrix} -\partial_{\tau_1} \delta_{12} - H_{12} & -\Delta_{[12]}(\tau_1) \\ \sum_{i' \in I} \Delta_{i'}^*(\tau_1) \varphi_{i'}^*([12]) & -\partial_{\tau_1} \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \\ &= \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ \varphi_i^*([12]) & 0 \end{pmatrix} \delta(\tau - \tau_1) \delta(\tau_1 - \tau_2) \end{aligned} \quad (99)$$

である。Green 関数 $G[\Delta, \Delta^*]$ を

$$G_{12}(\tau_1, \tau_2) = \begin{pmatrix} \mathcal{G}_{12}(\tau_1, \tau_2) & \mathcal{F}_{12}(\tau_1, \tau_2) \\ \mathcal{F}_{21}^*(\tau_2, \tau_1) & \mathcal{G}_{21}(\tau_2, \tau_1) \end{pmatrix} \quad (100)$$

とパラメタ付けする。すると

$$\begin{aligned} \frac{\delta S[\Delta, \Delta^*]}{\delta \Delta_i^*(\tau)} &= -\frac{1}{2} \sum_{12} \int_0^\beta d\tau_1 d\tau_2 [\mathcal{F}_{12}(\tau_1, \tau_2) \varphi_i^*([21]) \delta(\tau - \tau_2) \delta(\tau_2 - \tau_1)] + V_{ij}^{-1} \Delta_j(\tau) \\ &= -\frac{1}{2} \sum_{12} [\mathcal{F}_{12}(\tau, \tau) \varphi_i^*([21])] + V_{ij}^{-1} \Delta_j(\tau) \\ &= \frac{1}{2} \sum_{12} [\mathcal{F}_{12}(\tau, \tau) \varphi_i^*([12])] + V_{ij}^{-1} \Delta_j(\tau) \end{aligned} \quad (101)$$

となる。trace だから $\sum_{12} f_{12} g_{21}$ に注意。また 12 の和を全て取っているから行列の足は残っていないことに注意。

これから鞍点方程式

$$\Delta_i(\tau) = -\frac{1}{2} V_{ij} \sum_{12} [\mathcal{F}_{12}(\tau, \tau; \Delta, \Delta^*) \varphi_j^*([12])] \quad (102)$$

を得る。

3.6 Ginzburg-Landau free energy

補助場 Δ, Δ^* の低次のみが分配関数に効く (連続転移の転移点近傍なら OK) と思って $\tilde{S}[\Delta, \Delta^*]$ を展開しよう。

$$\begin{aligned} Z &= \int D\Delta_i^* D\Delta_i e^{-\tilde{S}[\Delta_i]} \\ &= \int D\Delta_i^* D\Delta_i \exp \left(\frac{1}{2} \text{Tr} \ln [G^{-1}[\Delta_i]] - \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j \right) \end{aligned} \quad (103)$$

$$\tilde{S}[\Delta_i] = -\frac{1}{2} \text{Tr} \ln [G^{-1}[\Delta_i]] + \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j \quad (104)$$

$$[G^{-1}[\Delta_i]]_{12}(\tau_1, \tau_2) = \begin{pmatrix} -\partial_{\tau_1} \delta_{12} - H_{12} & -\Delta_{[12]} \\ -\Delta_{[21]}^* & -\partial_{\tau_1} \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \quad (105)$$

$$\Delta_{[12]} = \sum_{i \in I} \Delta_i \varphi_i([12]), \quad \Delta_{[12]}^* = \sum_{i \in I} \Delta_i^* \varphi_i^*([12]), \quad (106)$$

だった。 $\frac{1}{2} \text{Tr} \ln [G^{-1}[\Delta_i]]$ を Δ で展開すれば良い。

$$G^{-1}[\Delta_i] = G_0^{-1} - \hat{\Delta} \quad (107)$$

$$\begin{aligned} [G_0^{-1}]_{12}(\tau_1, \tau_2) &= \begin{pmatrix} -\partial_{\tau_1} \delta_{12} - H_{12} & 0 \\ 0 & -\partial_{\tau_1} \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \\ &= \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \begin{pmatrix} i\omega_n \delta_{12} - H_{12} & 0 \\ 0 & i\omega_n \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2)} \\ &= \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} [G_0^{-1}(\omega_n)]_{12} e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2)} \end{aligned} \quad (108)$$

$$\begin{aligned}
\left[\hat{\Delta}\right]_{12}(\tau_1, \tau_2) &= \left[\hat{\Delta}(\tau_1)\right]_{12} \delta(\tau_1 - \tau_2) \\
&= \begin{pmatrix} 0 & \Delta_{[12]}(\tau_1) \\ \Delta_{[21]}^*(\tau_1) & 0 \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \\
&= \sum_i \begin{pmatrix} 0 & \Delta_i(\tau_1)\varphi_i([12]) \\ \Delta_i^*(\tau_1)\varphi_i^*([21]) & 0 \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \\
&\left(= \frac{1}{\beta} \sum_{\Omega_m, \omega_n} \sum_i \begin{pmatrix} 0 & \Delta_i(\Omega_m)\varphi_i([12]) \\ [\Delta_i(-\Omega_m)]^* \varphi_i^*([21]) & 0 \end{pmatrix} e^{-i\Omega_m\tau_1} e^{-i\Omega_n(\tau_1 - \tau_2)} \right)
\end{aligned} \tag{109}$$

と分離する。ここで $\Omega_n = 2n\pi/\beta$ であり

$$\begin{aligned}
\Delta_i(\tau) &= \sum_{\Omega_n} \Delta_i(\Omega_n) e^{-i\Omega_n\tau} \\
\Delta_i(\Omega_n) &= \frac{1}{\beta} \int_0^\beta d\tau \Delta_i(\tau) e^{i\Omega_n\tau}
\end{aligned} \tag{110}$$

とした。すると

$$\begin{aligned}
\tilde{S}[\Delta_i] &= -\frac{1}{2} \text{Tr} \ln [G_0^{-1} - \hat{\Delta}] + \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j \\
&= \frac{1}{2} \sum_{n \in \text{even}} \frac{1}{n} \text{Tr} [G_0 \hat{\Delta}]^n + \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j \\
&= \frac{1}{4} \text{Tr} [G_0 \hat{\Delta}]^2 + \frac{1}{8} \text{Tr} [G_0 \hat{\Delta}]^4 + \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j + O(\Delta^6)
\end{aligned} \tag{111}$$

となる。ここで定数項は無視した。また $\Delta = 0$ からの展開では n が偶数の項しか残らない。 $G_0(\tau_1, \tau_2)$ は

$$\begin{aligned}
G_0(\tau_1, \tau_2) &= \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} G_0(\omega_n) e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2)}, \\
\sum_{12} [G_0(\omega_n)]_{12} [G_0^{-1}(\omega_n)]_{23} &= \delta_{13}, \\
G_0(\omega_n) &= \begin{pmatrix} \mathcal{G}(\omega_n) & 0 \\ 0 & \mathcal{G}^h(\omega_n) \end{pmatrix}
\end{aligned} \tag{112}$$

与えられる。2次項 $\frac{1}{4}\text{Tr} [G_0\hat{\Delta}]^2$ は

$$\begin{aligned}
& \frac{1}{4}\text{Tr} [G_0\hat{\Delta}]^2 \\
&= \frac{1}{4} \int_0^\beta d\tau_1 d\tau_2 d\tau_3 d\tau_4 \sum_{1234} \\
&\text{tr} \left[\frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} [G_0(\omega_n)]_{12} e^{-i\omega_n(\tau_1-\tau_2)} [\hat{\Delta}(\tau_2)]_{23} \delta(\tau_2-\tau_3) \frac{1}{\beta} \sum_{\omega'_n} [G_0(\omega'_n)]_{34} e^{-i\omega'_n(\tau_3-\tau_4)} [\hat{\Delta}(\tau_4)]_{41} \delta(\tau_4-\tau_1) \right] \\
&= \frac{1}{4} \sum_{\omega_n \omega'_n} \sum_{1234} \text{tr} \left[[G_0(\omega_n)]_{12} [\hat{\Delta}(\omega_n - \omega'_n)]_{23} [G_0(\omega'_n)]_{34} [\hat{\Delta}(\omega'_n - \omega_n)]_{41} \right] \\
&= \frac{1}{4} \sum_{\omega_n \omega'_n} \sum_{1234} \text{tr} \left[\begin{pmatrix} [\mathcal{G}(\omega_n)]_{12} & 0 \\ 0 & [\mathcal{G}^h(\omega_n)]_{12} \end{pmatrix} \sum_i \begin{pmatrix} 0 & \Delta_i(\omega_n - \omega'_n) \varphi_i([23]) \\ [\Delta_i(\omega'_n - \omega_n)]^* \varphi_i^*([32)] & 0 \end{pmatrix} \right. \\
&\quad \left. \begin{pmatrix} [\mathcal{G}(\omega'_n)]_{34} & 0 \\ 0 & [\mathcal{G}^h(\omega'_n)]_{34} \end{pmatrix} \sum_j \begin{pmatrix} 0 & \Delta_j(\omega'_n - \omega_n) \varphi_j([41]) \\ [\Delta_j(\omega_n - \omega'_n)]^* \varphi_j^*([14)] & 0 \end{pmatrix} \right] \\
&= \frac{1}{2} \sum_{\omega_n \omega'_n} \sum_{1234} \text{tr} \left[[\mathcal{G}(\omega_n)]_{12} \sum_i \Delta_i(\omega_n - \omega'_n) \varphi_i([23]) [\mathcal{G}^h(\omega'_n)]_{34} \sum_j [\Delta_j(\omega_n - \omega'_n)]^* \varphi_j^*([14)] \right] \\
&= \frac{1}{2} \sum_{ij} \sum_{\omega_n \omega'_n} \Delta_i(\omega_n - \omega'_n) [\Delta_j(\omega_n - \omega'_n)]^* \sum_{1234} \text{tr} \left[[\mathcal{G}(\omega_n)]_{12} \varphi_i([23]) [\mathcal{G}^h(\omega'_n)]_{34} \varphi_j^*([14)] \right] \\
&= -\frac{1}{2} \sum_{ij} \sum_{\omega_n \omega'_n} \Delta_i(\omega_n - \omega'_n) [\Delta_j(\omega_n - \omega'_n)]^* \sum_{1234} \text{tr} \left[[\mathcal{G}(\omega_n)]_{12} \varphi_i([23]) [\mathcal{G}^h(\omega'_n)]_{34} \varphi_j^*([41)] \right] \\
&= -\frac{1}{2} \sum_{ij} \sum_{\Omega_m} \Delta_i(\Omega_m) [\Delta_j(\Omega_m)]^* \sum_{\omega_n} \sum_{1234} \text{tr} \left[[\mathcal{G}(\omega_n + \Omega_m/2)]_{12} \varphi_i([23]) [\mathcal{G}^h(\omega_n - \Omega_m/2)]_{34} \varphi_j^*([41)] \right] \\
&= -\frac{1}{2} \sum_{ij} \sum_{\Omega_m} [\Delta_i(\Omega_m)]^* \Delta_j(\Omega_m) \sum_{\omega_n} \sum_{1234} \text{tr} \left[[\mathcal{G}(\omega_n + \Omega_m/2)]_{12} \varphi_j([23]) [\mathcal{G}^h(\omega_n - \Omega_m/2)]_{34} \varphi_i^*([41)] \right]
\end{aligned} \tag{113}$$

と書ける。 $\Omega_m = 2m\pi/\beta$, $\omega_n = (2n+1)\pi/\beta$ である。ここで基底の [12] に対する反対称性 $\varphi_i([12]) = -\varphi_i([21])$ を用いた。 $\int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j$ は

$$\int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^*(\tau) \Delta_j(\tau) = \beta \sum_{ij} \sum_{\Omega_m} [\Delta_i(\Omega_m)]^* V_{ij}^{-1} \Delta_j(\Omega_m) \tag{114}$$

だから合わせて

$$\begin{aligned}
& \tilde{S}_2[\Delta, \Delta^*] \\
&= \beta \sum_{ij} \sum_{\Omega_m} [\Delta_i(\Omega_m)]^* \Delta_j(\Omega_m) \\
&\quad \left[V_{ij}^{-1} - \frac{1}{2} \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \sum_{1234} \text{tr} \left[[\mathcal{G}(\omega_n + \Omega_m/2)]_{12} \varphi_j([23]) [\mathcal{G}^h(\omega_n - \Omega_m/2)]_{34} \varphi_i^*([41)] \right] \right]
\end{aligned} \tag{115}$$

を得る。特に $\Omega_m = 0$ 成分は

$$\begin{aligned} & \tilde{S}_2[\Delta, \Delta^*; \Omega_m = 0] \\ &= \beta \sum_{ij} [\Delta_i(\Omega_m = 0)]^* \Delta_j(\Omega_m = 0) \left[V_{ij}^{-1} - \frac{1}{2} \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \sum_{1234} \text{tr} \left[[\mathcal{G}(\omega_n)]_{12} \varphi_j([23]) [\mathcal{G}^h(\omega_n)]_{34} \varphi_i^*([41]) \right] \right] \end{aligned} \quad (116)$$

となる。

意味が不明瞭なので具体例で確かめよう。

3.6.1 s 波

$$H_0 = \sum_{\mathbf{k}\alpha} \varepsilon(\mathbf{k}) c_{\mathbf{k}\alpha}^\dagger c_{\mathbf{k}\alpha} = \sum_{\mathbf{k}_1\alpha\mathbf{k}_2\beta} \varepsilon(\mathbf{k}_1) \delta_{\mathbf{k}_1\mathbf{k}_2} \delta_{\alpha\beta} c_{\mathbf{k}_1\alpha}^\dagger c_{\mathbf{k}_2\beta} \quad (117)$$

$$H_{int} = -\frac{U}{V} \sum_{\mathbf{k}\mathbf{k}'\mathbf{q}} c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\uparrow}^\dagger c_{-\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\downarrow}^\dagger c_{-\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\downarrow} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\uparrow} \quad (118)$$

の場合を考える。

$$V_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} = \frac{U}{V} \delta_{\mathbf{q}\mathbf{q}'} \quad (119)$$

$$\varphi_{\mathbf{q}}([\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)) = \delta_{\mathbf{q},\mathbf{k}_1+\mathbf{k}_2} (i\sigma_2)_{\alpha\beta} \quad (120)$$

$$\begin{aligned} [G_0^{-1}]_{12}(\tau_1, \tau_2) &= \begin{pmatrix} -\partial_{\tau_1} \delta_{12} - H_{12} & 0 \\ 0 & -\partial_{\tau_1} \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \\ &= \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \begin{pmatrix} i\omega_n \delta_{12} - H_{12} & 0 \\ 0 & i\omega_n \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2)} \\ &= \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} [G_0^{-1}(\omega_n)]_{12} e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2)} \end{aligned} \quad (121)$$

$$[G_0^{-1}(\omega_n)]_{\alpha\beta}(\mathbf{k}_1, \mathbf{k}_2) = \begin{pmatrix} i\omega_n - \varepsilon(\mathbf{k}_1) & 0 \\ 0 & i\omega_n + \varepsilon(\mathbf{k}_1) \end{pmatrix} \delta_{\alpha\beta} \delta_{\mathbf{k}_1\mathbf{k}_2} \quad (122)$$

である。すると

$$\begin{aligned} [G_0(\omega_n)]_{\alpha\beta}(\mathbf{k}_1, \mathbf{k}_2) &= \begin{pmatrix} \mathcal{G}_{\alpha\beta}(\omega_n, \mathbf{k}_1) & 0 \\ 0 & \mathcal{G}_{\alpha\beta}^h(\omega_n, \mathbf{k}_1) \end{pmatrix} \delta_{\mathbf{k}_1\mathbf{k}_2} \\ &= \begin{pmatrix} \frac{1}{i\omega_n - \varepsilon(\mathbf{k}_1)} & 0 \\ 0 & \frac{1}{i\omega_n + \varepsilon(\mathbf{k}_1)} \end{pmatrix} \delta_{\mathbf{k}_1\mathbf{k}_2} \delta_{\alpha\beta} \end{aligned} \quad (123)$$

となり

$$\begin{aligned}
& -\frac{1}{2} \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \sum_{1234} \text{tr} \left[[\mathcal{G}(\omega_n + \Omega_m/2)]_{12} \varphi_j([23]) [\mathcal{G}^h(\omega_n - \Omega_m/2)]_{34} \varphi_i^*([41]) \right] \\
& \mapsto -\frac{1}{2} \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \sum_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2 \mathbf{k}_3 \mathbf{k}_4 \alpha \beta \gamma \delta} \mathcal{G}_{\alpha\beta}(\omega_n + \Omega_m/2, \mathbf{k}_1) \delta_{\alpha\beta} \delta_{\mathbf{k}_1 \mathbf{k}_2} \left(\delta_{\mathbf{q}', \mathbf{k}_2 + \mathbf{k}_3} (i\sigma_2)_{\beta\gamma} \right) \\
& \qquad \qquad \qquad \mathcal{G}_{\gamma\delta}^h(\omega_n - \Omega_m/2, \mathbf{k}_3) \delta_{\gamma\delta} \delta_{\mathbf{k}_3 \mathbf{k}_4} \left(\delta_{\mathbf{q}, \mathbf{k}_4 + \mathbf{k}_1} (i\sigma_2)_{\delta\alpha} \right) \\
& = -\frac{1}{2} \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \sum_{\mathbf{k} \mathbf{k}'} \text{tr} \left[\mathcal{G}(\omega_n + \Omega_m/2, \mathbf{k}) \delta_{\mathbf{q}', \mathbf{k} + \mathbf{k}'} (i\sigma_2) \mathcal{G}^h(\omega_n - \Omega_m/2, \mathbf{k}') \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{k}' + \mathbf{k}} (i\sigma_2) \right] \\
& = -\frac{1}{2} \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \sum_{\mathbf{Q} \mathbf{k}} \text{tr} \left[\mathcal{G}(\omega_n + \Omega_m/2, \mathbf{k} + \mathbf{Q}/2) \delta_{\mathbf{q}', \mathbf{Q}} (i\sigma_2) \mathcal{G}^h(\omega_n - \Omega_m/2, -\mathbf{k} + \mathbf{Q}/2) \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{Q}} (i\sigma_2) \right] \\
& = -\delta_{\mathbf{q} \mathbf{q}'} \frac{1}{2} \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \text{tr} \left[\mathcal{G}(\omega_n + \Omega_m/2, \mathbf{k} + \mathbf{q}/2) (i\sigma_2) \mathcal{G}^h(\omega_n - \Omega_m/2, -\mathbf{k} + \mathbf{q}/2) (i\sigma_2) \right]
\end{aligned} \tag{124}$$

となる。これは s 波に対する一般式である。上記は南部表示を

$$\Psi_{\mathbf{k}\alpha} = \begin{pmatrix} c_{\mathbf{k}\alpha}^* \\ c_{\mathbf{k}\alpha} \end{pmatrix} \tag{125}$$

と取っている。南部表示は空間的に局所的に取るのが普通だから、その場合は

$$\Psi_{\mathbf{k}\alpha} = \begin{pmatrix} c_{\mathbf{k}\alpha}^* \\ c_{-\mathbf{k}\alpha} \end{pmatrix} \tag{126}$$

とする。すると hole の Green 関数 $\mathcal{G}^h(\omega_n, \mathbf{k})$ の \mathbf{k} の符号が変わる。こちらの表示では

$$\begin{aligned}
& -\frac{1}{2} \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \sum_{1234} \text{tr} \left[[\mathcal{G}(\omega_n + \Omega_m/2)]_{12} \varphi_j([23]) [\mathcal{G}^h(\omega_n - \Omega_m/2)]_{34} \varphi_i^*([41]) \right] \\
& = -\delta_{\mathbf{q} \mathbf{q}'} \frac{1}{2} \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \text{tr} \left[\mathcal{G}(\omega_n + \Omega_m/2, \mathbf{k} + \mathbf{q}/2) (i\sigma_2) \mathcal{G}^h(\omega_n - \Omega_m/2, \mathbf{k} - \mathbf{q}/2) (i\sigma_2) \right]
\end{aligned} \tag{127}$$

よって Δ の 2 次項は

$$\begin{aligned}
& \tilde{S}_2[\Delta, \Delta^*] \\
& = \beta \sum_{\mathbf{q} \mathbf{q}'} \sum_{\Omega_m} [\Delta(\Omega_m, \mathbf{q})]^* \Delta(\Omega_m, \mathbf{q}') \\
& \quad \left[\frac{V}{U} \delta_{\mathbf{q} \mathbf{q}'} - \delta_{\mathbf{q} \mathbf{q}'} \frac{1}{2} \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \text{tr} \left[\mathcal{G}(\omega_n + \Omega_m/2, \mathbf{k} + \mathbf{q}/2) (i\sigma_2) \mathcal{G}^h(\omega_n - \Omega_m/2, \mathbf{k} - \mathbf{q}/2) (i\sigma_2) \right] \right] \\
& = \beta V \sum_{\mathbf{q}} \sum_{\Omega_m} [\Delta(\Omega_m, \mathbf{q})]^* \Delta(\Omega_m, \mathbf{q}) \\
& \quad \left[\frac{1}{U} - \frac{1}{2} \frac{1}{\beta V} \sum_{\omega_n} \text{tr} \left[\mathcal{G}(\omega_n + \Omega_m/2, \mathbf{k} + \mathbf{q}/2) (i\sigma_2) \mathcal{G}^h(\omega_n - \Omega_m/2, \mathbf{k} - \mathbf{q}/2) (i\sigma_2) \right] \right]
\end{aligned} \tag{128}$$

3.7 Ginzburg-Landau (運動量空間表示)

$$Z = \int D\Delta^* D\Delta e^{-\tilde{S}[\Delta]} = \int D\Delta^* D\Delta \exp \left(\frac{1}{2} \text{Tr} \ln [G^{-1}[\Delta]] - \int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{q}, ij \in I} \Delta_i^*(\mathbf{q}) [v^{-1}(\mathbf{q})]_{ij} \Delta_j(\mathbf{q}) \right) \quad (129)$$

$$\tilde{S}[\Delta] = -\frac{1}{2} \text{Tr} \ln [G^{-1}[\Delta]] + \int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{q}, ij \in I} \Delta_i^*(\mathbf{q}) [v^{-1}(\mathbf{q})]_{ij} \Delta_j(\mathbf{q}) \quad (130)$$

$$[G^{-1}[\Delta]](\tau_1, \tau_2) = \begin{pmatrix} -\partial_\tau \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{0}} \delta_{\alpha\beta} - h_{\alpha\beta}(\mathbf{k}) \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{0}} & -\sum_{i \in I} \varphi_{\alpha\beta}^i(\mathbf{k}) \Delta_i(\tau, \mathbf{q}) \\ -\sum_{i \in I} \Delta_i^*(\tau, \mathbf{q}) [\varphi_{\beta\alpha}^i(\mathbf{k})]^* & -\partial_\tau \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{0}} \delta_{\alpha\beta} + h_{\beta\alpha}(-\mathbf{k}) \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{0}} \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \quad (131)$$

$$\begin{aligned} \Delta_{\alpha\beta}^i(\tau, \mathbf{k}, \mathbf{q}) &= \sum_{i \in I} \varphi_{\alpha\beta}^i(\mathbf{k}) \Delta_i(\tau, \mathbf{q}), \\ \Delta_{\alpha\beta}^{i*}(\tau, \mathbf{k}, \mathbf{q}) &= \sum_{i \in I} \Delta_i^*(\tau, \mathbf{q}) [\varphi_{\beta\alpha}^i(\mathbf{k})]^*, \end{aligned} \quad (132)$$

まず分離：

$$G^{-1}[\Delta] = G_0^{-1} - \hat{\Delta} \quad (133)$$

$$\begin{aligned} [G_0^{-1}](\tau_1, \tau_2) &= \begin{pmatrix} -\partial_\tau \delta_{\alpha\beta} & 0 \\ 0 & -\partial_\tau \delta_{\alpha\beta} + h_{\beta\alpha}(-\mathbf{k}) \end{pmatrix} \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{0}} \delta(\tau_1 - \tau_2) \\ &= \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} \begin{pmatrix} i\omega_n \delta_{\alpha\beta} - h_{\alpha\beta}(\mathbf{k}) & 0 \\ 0 & i\omega_n \delta_{\alpha\beta} + h_{\beta\alpha}(-\mathbf{k}) \end{pmatrix} \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{0}} e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2)} \\ &= \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} G_0^{-1}(\omega_n, \mathbf{k}) \delta_{\mathbf{q}, \mathbf{0}} e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2)} \end{aligned} \quad (134)$$

$$\hat{\Delta}(\tau_1, \tau_2) = \begin{pmatrix} 0 & \sum_{i \in I} \varphi_{\alpha\beta}^i(\mathbf{k}) \Delta_i(\tau, \mathbf{q}) \\ \sum_{i \in I} \Delta_i^*(\tau, \mathbf{q}) [\varphi_{\beta\alpha}^i(\mathbf{k})]^* & 0 \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \quad (135)$$

すると

$$\begin{aligned} \tilde{S}[\Delta_i] &= -\frac{1}{2} \text{Tr} \ln [G_0^{-1} - \hat{\Delta}] + \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j \\ &= \frac{1}{2} \sum_{n \in \text{even}} \frac{1}{n} \text{Tr} [G_0 \hat{\Delta}]^n + \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j \\ &= \frac{1}{4} \text{Tr} [G_0 \hat{\Delta}]^2 + \int_0^\beta d\tau \sum_{\mathbf{q}, ij \in I} \Delta_i^*(\mathbf{q}) [v^{-1}(\mathbf{q})]_{ij} \Delta_j(\mathbf{q}) + \frac{1}{8} \text{Tr} [G_0 \hat{\Delta}]^4 + O(\Delta^6) \end{aligned} \quad (136)$$

となる。ここで定数項は無視した。また $\Delta = 0$ からの展開では n が偶数の項しか残らない。 $G_0(\tau_1, \tau_2)$ は

$$\begin{aligned} G_0(\tau_1, \tau_2) &= \frac{1}{\beta} \sum_{\omega_n} G_0(\omega_n) e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2)}, \\ \sum_{12} [G_0(\omega_n)]_{12} [G_0^{-1}(\omega_n)]_{23} &= \delta_{13}, \\ G_0(\omega_n) &= \begin{pmatrix} \mathcal{G}(\omega_n) & 0 \\ 0 & \mathcal{G}^h(\omega_n) \end{pmatrix} \end{aligned} \quad (137)$$

3.8 Ginzburg-Landau 有効作用

GL 有効作用

$$S_{GL}[\Delta, \Delta^*] = -\frac{1}{2} \text{Tr} \ln [G^{-1}[\Delta, \Delta^*]] + \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \Delta_i^* V_{ij}^{-1} \Delta_j \quad (138)$$

$$[G^{-1}[\Delta_i]]_{12}(\tau_1, \tau_2) = \begin{pmatrix} -\partial_{\tau_1} \delta_{12} - H_{12} & -\Delta_{[12]} \\ -\Delta_{[21]}^* & -\partial_{\tau_1} \delta_{12} + H_{21} \end{pmatrix} \delta(\tau_1 - \tau_2) \quad (139)$$

$$\begin{aligned} \Delta_{[12]} &= \sum_{i \in I} \Delta_i \varphi_i([12]), \\ \Delta_{[12]}^* &= \sum_{i \in I} \Delta_i^* \varphi_i^*([12]), \end{aligned} \quad (140)$$

を転移点近傍において $\Delta_i/T \ll 1$ を展開パラメタとして展開しよう。平均場 + Gauss ゆらぎまでを扱う。 $\Delta_i(\tau) = \Delta_i^{MF}$ を平均場とし、平均場の周りのゆらぎ： $\delta\Delta_i(\tau) = \Delta_i(\tau) - \Delta_i^{MF}$ について2次まで展開する。例えば s 波のチャンネルの場合、実空間基底で展開するとラベル $i \in I$ は $\mathbf{x} \in \mathbf{R}^3$ であり、平均場 Δ_i^{MF} 及びゆらぎ $\delta\Delta_i(\tau)$ は

$$\Delta^{MF}(\mathbf{x}) = \Delta^{MF} \quad (\mathbf{x} - \text{indep.}) \quad (141)$$

$$\delta\Delta(\mathbf{x}, \tau) = \Delta(\mathbf{x}, \tau) - \Delta^{MF} \quad (142)$$

となる。運動量空間基底で展開するとラベル $i \in I$ はペアの重心運動量 $\mathbf{q} \in \mathbf{R}^3$ であり、平均場 Δ_i^{MF} 及びゆらぎ $\delta\Delta_i(\tau)$ は

$$\Delta^{MF}(\mathbf{q}) = \begin{cases} \Delta^{MF} & (\mathbf{q} = \mathbf{0}) \\ 0 & (\mathbf{q} \neq \mathbf{0}) \end{cases} \quad (143)$$

$$\delta\Delta(\mathbf{q}, \tau) = \Delta(\mathbf{q}, \tau) - \Delta^{MF} \quad (144)$$

である。

平均場 + Gauss ゆらぎの展開は一般的に

$$\begin{aligned}
S_{GL}[\Delta, \Delta^*] &= S_{GL}[\Delta^{MF}, \Delta^{MF*}] \\
&+ \frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau_1 \int_0^\beta d\tau_2 \sum_{ij} \delta\Delta_i^*(\tau_1) \frac{\delta S_{GL}[\Delta, \Delta^*]}{\delta\Delta_i^*(\tau_1)\delta\Delta_j^*(\tau_2)} \Big|_{\Delta \equiv \Delta^{MF}, \Delta^* \equiv \Delta^{MF*}} \delta\Delta_j^*(\tau_2) \\
&+ \int_0^\beta d\tau_1 \int_0^\beta d\tau_2 \sum_{ij} \delta\Delta_i^*(\tau_1) \frac{\delta S_{GL}[\Delta, \Delta^*]}{\delta\Delta_i^*(\tau_1)\delta\Delta_j(\tau_2)} \Big|_{\Delta \equiv \Delta^{MF}, \Delta^* \equiv \Delta^{MF*}} \delta\Delta_j(\tau_2) \\
&+ \frac{1}{2} \int_0^\beta d\tau_1 \int_0^\beta d\tau_2 \sum_{ij} \delta\Delta_i(\tau_1) \frac{\delta S_{GL}[\Delta, \Delta^*]}{\delta\Delta_i(\tau_1)\delta\Delta_j(\tau_2)} \Big|_{\Delta \equiv \Delta^{MF}, \Delta^* \equiv \Delta^{MF*}} \delta\Delta_j(\tau_2)
\end{aligned} \tag{145}$$

と書けるが、オーダー相内 ($\Delta^{MF} \neq 0$) では $\frac{\delta S_{GL}[\Delta, \Delta^*]}{\delta\Delta_i^*(\tau_1)\delta\Delta_j(\tau_2)} \Big|_{\Delta \equiv \Delta^{MF}, \Delta^* \equiv \Delta^{MF*}}$ がゼロ固有値 (ゴールドストーンモード) を持つので、ゴールドストーンモードとそれに直交するモードについては別々に扱う必要がある。以下では $T > T_c$ と $T < T_c$ に分けて GL 有効作用の表式を与えよう。

3.8.1 Ginzburg-Landau 有効作用 ($T > T_c$)

disorder 相で GL 有効作用を展開する。

4 Coulomb channel

斥力の Coulomb channel に対して、Stratonovich-Hubbard 変換、RPA の有効作用についてまとめる。

4.1 Coulomb channel のハミルトニアン

次の形の一般的な 2 体相互作用を考える：

$$H_{int} = \sum_{121'2'} V_{12,1'2'} c_1^\dagger c_2 c_1' c_2' \quad (146)$$

作用を

$$-S[c, c^*] = \int_0^\beta d\tau \left(\sum_{12} c_1^* (-\partial_\tau \delta_{12} - H_{12}) c_2 - \sum_{121'2'} V_{12,1'2'} c_1^* c_2 c_1' c_2' \right) \quad (147)$$

とする。虚時間の自由度 τ は必要があるまで特に明示しない。 $V_{12,1'2'}$ は足の入れ替え ($1 \leftrightarrow 1'$), ($2 \leftrightarrow 2'$) に対して反対称化されているものとする：

$$V_{12,1'2'} = -V_{1'2,12} = -V_{12',1'2} = V_{1'2',12} \quad (148)$$

特に ($12 \leftrightarrow 1'2'$) に対して対称である： $V_{12,1'2'} = V_{1'2',12}$ 。またエルミト性：

$$V_{12,1'2'} = V_{21',2'1}^* \quad (149)$$

も満たす。Cooper channel の場合とは異なり、足 12 に関して対称性を考える必要はない。複素 c-数(ボソン)の補助場を導入して Stratonovich-Hubbard 変換する際に、ガウス積分の収束性より引力と斥力とでは Stratonovich-Hubbard 変換が異なる。つまり、ひとつの Stratonovich-Hubbard 変換で引力と斥力は同時にカバーできない。ここでは斥力に対する Stratonovich-Hubbard 変換を考えたいので、予め扱う $V_{12,1'2'}$ を以下のように制限しておく。まず自由度 12 は何らかの“実”な基底 $\varphi_i(12)$, $[\varphi_i(12)]^* = \varphi_i(12)$ で展開できるものとする：

$$\begin{aligned} f(12) &= \sum_i f_i \varphi_i(12), \\ \sum_{12} \varphi_i(12) \varphi_j(12) &\propto \delta_{ij} \end{aligned} \quad (150)$$

ここで“基底” $\varphi_i(12)$ の直交性は仮定するが規格化可能性は仮定しない。すると $V_{12,1'2'}$ は

$$V_{12,1'2'} = \sum_{ij} V_{ij} \varphi_i(12) \varphi_j(1'2') \quad (151)$$

と展開できる。 $V_{12,1'2'}$ の対称性より V_{ij} は対称行列である。よって固有値は実数である。斥力が存在するチャンネル(基底)にのみ Stratonovich-Hubbard 変換が適用できる(引力には別の

Stratonovich-Hubbard 変換を適用) ので、斥力であるチャンネルを予め規定する。つまり自由度 12 の部分空間 I が存在し、部分空間 I 内の行列 V_{ij} ($i, j \in I$) の固有値は全て正 (ゼロもダメ) であるとする。よって次の形の相互作用ハミルトニアンを考える :

$$H_{int} = \sum_{ij \in I} V_{ij} \left(\sum_{12} \varphi_i([12]) c_1^\dagger c_2 \right) \left(\sum_{1'2'} \varphi_j(1'2') c_{1'}^\dagger c_{2'} \right) \quad (152)$$

(ただし V_{ij} の固有値は全て正)

結局、斥力のクーロン・チャンネルは一般的に次の表式となる :

$i \in I$ を斥力のチャンネルのラベルとする。 V_{ij} の固有値を全て正とする。

$$H_{int} = \sum_{ij \in I} V_{ij} \left(\sum_{12} \varphi_i([12]) c_1^\dagger c_2 \right) \left(\sum_{1'2'} \varphi_j(1'2') c_{1'}^\dagger c_{2'} \right) \quad (153)$$

$$-S[c, c^*] = \int_0^\beta d\tau \left\{ \sum_{12} c_1^* (-\partial_\tau \delta_{12} - H_{12}) c_2 - \sum_{ij \in I} V_{ij} \left(\sum_{12} \varphi_i(12) c_1^* c_2 \right) \left(\sum_{1'2'} \varphi_j(1'2') c_{1'}^* c_{2'} \right) \right\} \quad (154)$$

チャンネルの集合 I 、及び、基底 $\varphi_i(12)$ については抽象的で分かりにくいのでいくつかの具体例で確認する。

4.1.1 具体例：等方的なハードコア斥力

contact 型で等方的な斥力ハミルトニアン

$$\begin{aligned} H_{int} &= U \int d^3 \mathbf{x} \rho(\mathbf{x}) \rho(\mathbf{x}) \\ &= U \sum_{\mathbf{q}} \rho(\mathbf{q}) \rho(-\mathbf{q}) = U \sum_{\mathbf{q}} \rho(\mathbf{q}) \rho^\dagger(\mathbf{q}) \\ &= U \int d^3 \mathbf{x} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \psi_\alpha(\mathbf{x}) \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) \psi_\beta(\mathbf{x}) \\ &= \frac{U}{V} \sum_{\mathbf{k}\mathbf{k}'\mathbf{q}} c_{\mathbf{k}-\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha}^\dagger c_{\mathbf{k}+\frac{\mathbf{q}}{2}\alpha} c_{\mathbf{k}'+\frac{\mathbf{q}}{2}\beta}^\dagger c_{\mathbf{k}'-\frac{\mathbf{q}}{2}\beta} \end{aligned} \quad (155)$$

を考えよう。 $\psi_\alpha(\mathbf{x})$ と $c_{\mathbf{k}\alpha}$ の基底の変換は

$$\begin{aligned} \psi_\alpha(\mathbf{x}) &= \frac{1}{\sqrt{V}} \sum_{\mathbf{k}} c_{\mathbf{k}\alpha} e^{i\mathbf{k}\cdot\mathbf{x}} \\ c_{\mathbf{k}\alpha} &= \frac{1}{\sqrt{V}} \int d^3 \mathbf{x} \psi_\alpha(\mathbf{x}) e^{-i\mathbf{k}\cdot\mathbf{x}} \end{aligned} \quad (156)$$

である。さて基底 $\varphi_i(12)$ が何であるかを考えたいのだが、実空間表示と波数表示で事情が異なる。実場 $\phi(\mathbf{x})$, $\phi^*(\mathbf{x}) = \phi(\mathbf{x})$ を波数表示すると複素場 $\phi(\mathbf{q})$, $\phi(-\mathbf{q}) = \phi^*(\mathbf{q})$ となり独立な自由度が波

数空間の半分、例えば $\text{Re } q_x > 0$ となり波数表示は扱いが面倒である。そこで、必要が無い限り実空間表示で考えよう。すると基底 $\varphi_i(12)$ は

$$H_{int} = U \int d^3 \mathbf{x} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \psi_\alpha(\mathbf{x}) \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) \psi_\beta(\mathbf{x}) \quad (157)$$

より、チャンネルのラベルは密度 $\rho(\mathbf{x})$ の位置 \mathbf{x} であり V_{ij} 及びチャンネルの基底 $\varphi_i(12)$ は

$$H_{int} = U \int d^3 \mathbf{x} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) \psi_\alpha(\mathbf{x}) \psi_\beta^\dagger(\mathbf{x}) \psi_\beta(\mathbf{x}) \quad (158)$$

$$i \mapsto \mathbf{x} \quad (159)$$

$$V_{\mathbf{x}, \mathbf{y}} = U \delta_{\mathbf{x} \mathbf{y}} \quad (160)$$

$$\varphi_{\mathbf{x}}((\mathbf{x}_1 \alpha)(\mathbf{x}_2 \beta)) = \delta_{\mathbf{x}, \mathbf{x}_1} \delta_{\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2} \delta_{\alpha \beta} \quad (161)$$

となる。

4.1.2 具体例：接触型、CDW・SDW

前節の接触型の斥力にスピン空間の依存性を加える。 $\sigma_\mu = (1, \sigma)$ とする。 $U_{\mu\nu}$ の固有値を全て正とする。 V_{ij} 及び $\varphi_i(12)$ は

$$H_{int} = U_{\mu\nu} \int d^3 \mathbf{x} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x}) (\sigma_\mu)_{\alpha\beta} \psi_\beta(\mathbf{x}) \psi_{\alpha'}^\dagger(\mathbf{x}) (\sigma_\nu)_{\alpha'\beta'} \psi_{\beta'}(\mathbf{x}) \quad (162)$$

$$i \mapsto \{\mu, \mathbf{x}\} \quad (163)$$

$$V_{\mu\mathbf{x}, \nu\mathbf{y}} = U_{\mu\nu} \delta_{\mathbf{x}, \mathbf{y}} \quad (164)$$

$$\varphi_{\mu\mathbf{x}}((\mathbf{x}_1 \alpha)(\mathbf{x}_2 \beta)) = \delta_{\mathbf{x}, \mathbf{x}_1} \delta_{\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2} (\sigma_\mu)_{\alpha\beta} \quad (165)$$

4.2 Stratonovich-Hubbard 変換

実ボソン場の補助場 $\phi_i(\tau)$ ($i \in I$) を導入する。基底の添字 $i \in I$ が補助場の自由度となる。 V を対称行列とする： $V_{ij} = V_{ji}$ 。Stratonovich-Hubbard 変換：

$$e^{-\rho^T V \rho} = \int D\phi \exp\left(-\frac{1}{4}\phi^T V^{-1}\phi - i\phi^T \rho\right) \quad (166)$$

を実行すると

$$\begin{aligned} e^{-S_{int}} &= \exp\left(-\int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} V_{ij} \left(\sum_{12} \varphi_i(12)c_1^*c_2\right) \left(\sum_{1'2'} \varphi_j(1'2')c_{1'}^*c_{2'}\right)\right) \\ &= \int D\phi \exp\left(-\frac{1}{4}\int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i V_{ij}^{-1} \phi_j - i \sum_i \int_0^\beta d\tau \phi_i(\tau) \left(\sum_{12} \varphi_i(12)c_1^*c_2\right)\right) \end{aligned} \quad (167)$$

となる。分配関数は

$$\begin{aligned} Z &= \int Dc^* Dc e^{-S[c]} \\ &= \int Dc^* Dc D\phi \exp\left(\int_0^\beta d\tau \sum_{12} c_1^* (-\partial_\tau \delta_{12} - H_{12}) c_2 \right. \\ &\quad \left. - \frac{1}{4}\int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i V_{ij}^{-1} \phi_j - i \sum_i \int_0^\beta d\tau \phi_i(\tau) \left(\sum_{12} \varphi_i(12)c_1^*c_2\right)\right) \\ &= \int Dc^* Dc D\phi \exp\left(\int_0^\beta d\tau \sum_{12} c_1^* \left(-\partial_\tau \delta_{12} - H_{12} - i \sum_i \phi_i(\tau) \varphi_i(12)\right) c_2 - \frac{1}{4}\int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i V_{ij}^{-1} \phi_j\right) \end{aligned} \quad (168)$$

フェルミオンの自由度を積分すると

$$Z = \int D\phi \exp\left(-\frac{1}{4}\int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i V_{ij}^{-1} \phi_j + \text{Tr} \ln G^{-1}[\phi]\right) \quad (169)$$

ただし

$$G_{12}^{-1}(\tau_1, \tau_2) = \left(-\partial_{\tau_1} \delta_{12} - H_{12} - i \sum_i \phi_i(\tau) \varphi_i(12)\right) \delta(\tau_1 - \tau_2) \quad (170)$$

である。

V_{ij} と $\varphi_i([(\mathbf{k}_1\alpha)(\mathbf{k}_2\beta)])$ の具体例を付記する。

contact CDW・SDW：

$$H_{int} = U_{\mu\nu} \int d^3\mathbf{x} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x})(\sigma_\mu)_{\alpha\beta} \psi_\beta(\mathbf{x}) \psi_{\alpha'}^\dagger(\mathbf{x})(\sigma_\nu)_{\alpha'\beta'} \psi_{\beta'}(\mathbf{x}) \quad (171)$$

$$i \mapsto \{\mu, \mathbf{x}\} \quad (172)$$

$$V_{\mu\mathbf{x},\nu\mathbf{y}} = U_{\mu\nu}\delta_{\mathbf{x},\mathbf{y}} \quad (173)$$

$$\varphi_{\mu\mathbf{x}}((\mathbf{x}_1\alpha)(\mathbf{x}_2\beta)) = \delta_{\mathbf{x},\mathbf{x}_1}\delta_{\mathbf{x}_1,\mathbf{x}_2}(\sigma_\mu)_{\alpha\beta} \quad (174)$$

長距離クーロン：

$$H_{int} = \frac{1}{2} \int d^3\mathbf{x}d^3\mathbf{y} \frac{e^2}{|\mathbf{x}-\mathbf{y}|} \psi_\alpha^\dagger(\mathbf{x})\psi_\alpha(\mathbf{x})\psi_\beta^\dagger(\mathbf{y})\psi_\beta(\mathbf{y}) \quad (175)$$

$$i \mapsto \mathbf{x} \quad (176)$$

$$V_{\mathbf{x},\mathbf{y}} = \frac{e^2}{2|\mathbf{x}-\mathbf{y}|} \quad (177)$$

$$\varphi_{\mathbf{x}}((\mathbf{x}_1\alpha)(\mathbf{x}_2\beta)) = \delta_{\mathbf{x},\mathbf{x}_1}\delta_{\mathbf{x}_1,\mathbf{x}_2}\delta_{\alpha\beta} \quad (178)$$

4.3 クーロンガス

具体例として長距離クーロンの存在下のスクリーニングとプラズマギャップを確認する。波数表示に移ったほうが計算が楽である。

$$\begin{aligned} \frac{1}{4} \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i V_{ij}^{-1} \phi_j &= \frac{1}{4} \int_0^\beta d\tau \int d^3x d^3y \phi(\mathbf{x}, \tau) V^{-1}(\mathbf{x}-\mathbf{y}) \phi(\mathbf{y}, \tau) \\ &= \frac{\beta V}{4} \sum_{\Omega_m} \sum_{\mathbf{q}} \phi(\mathbf{q}, \Omega_m) V^{-1}(\mathbf{q}) \phi(-\mathbf{q}, -\Omega_m) \end{aligned} \quad (179)$$

ここで

$$\phi(\mathbf{x}, \tau) = \sum_{\Omega_m, \mathbf{q}} \phi(\mathbf{q}, \Omega_m) e^{-i\Omega_m\tau + i\mathbf{q}\cdot\mathbf{x}}, \quad (180)$$

$$\phi(\mathbf{q}, \Omega_m) = \frac{1}{\beta V} \int d\tau d^3x \phi(\mathbf{x}, \tau) e^{i\Omega_m\tau - i\mathbf{q}\cdot\mathbf{x}}$$

$$V^{-1}(\mathbf{x}-\mathbf{y}) = \frac{1}{V} \sum_{\mathbf{q}} V^{-1}(\mathbf{q}) e^{i\mathbf{q}\cdot(\mathbf{x}-\mathbf{y})} \quad (181)$$

とした。

$$\int d^3y V(\mathbf{x}-\mathbf{y}) V^{-1}(\mathbf{y}-\mathbf{z}) = \delta(\mathbf{x}-\mathbf{z}) \quad (182)$$

より

$$V(\mathbf{x}-\mathbf{y}) = \frac{1}{V} \sum_{\mathbf{q}} V(\mathbf{q}) e^{i\mathbf{q}\cdot(\mathbf{x}-\mathbf{y})} \quad (183)$$

と定義すれば

$$V^{-1}(\mathbf{q}) = \frac{1}{V(\mathbf{q})} \quad (184)$$

である。さて $V(\mathbf{q})$ は $V(\mathbf{x} - \mathbf{y}) = \frac{e^2}{2|\mathbf{x} - \mathbf{y}|} = \frac{1}{2} \frac{1}{V} \sum_{\mathbf{q}} \frac{4\pi e^2}{q^2} e^{i\mathbf{q} \cdot (\mathbf{x} - \mathbf{y})}$ より $V(\mathbf{q}) = \frac{2\pi e^2}{q^2}$ だから

$$V^{-1}(\mathbf{q}) = \frac{q^2}{2\pi e^2} \quad (185)$$

である。よって

$$\frac{1}{4} \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i V_{ij}^{-1} \phi_j = \beta V \sum_{\Omega_m, \mathbf{q}} \frac{q^2}{8\pi e^2} \phi(\mathbf{q}, \Omega_m) \phi(-\mathbf{q}, -\Omega_m) \quad (186)$$

$$\begin{aligned} G_{12}^{-1}(\tau_1, \tau_2) &= \left(-\partial_{\tau_1} \delta_{12} - H_{12} - i \sum_i \phi_i(\tau) \varphi_i(12) \right) \delta(\tau_1 - \tau_2) \\ &= (-\partial_{\tau_1} \delta(\mathbf{x} - \mathbf{y}) \delta_{\alpha\beta} - H_{\alpha\beta}(\mathbf{x}, \mathbf{y}) - i\phi(\mathbf{x}, \tau) \delta(\mathbf{x} - \mathbf{y}) \delta_{\alpha\beta}) \delta(\tau_1 - \tau_2) \\ &=: G_0^{-1} - V \end{aligned} \quad (187)$$

と分離。スピン軌道相互作用は考えない。

$$\begin{aligned} G_0^{-1} &= (-\partial_{\tau_1} \delta(\mathbf{x} - \mathbf{y}) \delta_{\alpha\beta} - H_{\alpha\beta}(\mathbf{x}, \mathbf{y})) \delta(\tau_1 - \tau_2) \\ &= \frac{1}{\beta V} \sum_{\omega_n \mathbf{k}} (i\omega_n - \varepsilon_{\mathbf{k}} + \mu) \delta_{\alpha\beta} e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2) + i\mathbf{k} \cdot (\mathbf{x} - \mathbf{y})} \end{aligned} \quad (188)$$

より

$$\begin{aligned} G_0 &= \frac{1}{\beta V} \sum_{\omega_n \mathbf{k}} G_0(\omega_n, \mathbf{k}) e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2) + i\mathbf{k} \cdot (\mathbf{x} - \mathbf{y})} \\ &= \frac{1}{\beta V} \sum_{\omega_n \mathbf{k}} (i\omega_n - \varepsilon_{\mathbf{k}} + \mu)^{-1} \delta_{\alpha\beta} e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2) + i\mathbf{k} \cdot (\mathbf{x} - \mathbf{y})} \end{aligned} \quad (189)$$

$$V = i\phi(\mathbf{x}, \tau_1) \delta(\mathbf{x} - \mathbf{y}) \delta_{\alpha\beta} \delta(\tau_1 - \tau_2) \quad (190)$$

作用を ϕ の 2 次まで展開して (RPA)

$$\begin{aligned} S[\phi] &= \frac{1}{4} \int_0^\beta d\tau \sum_{ij \in I} \phi_i V_{ij}^{-1} \phi_j - \text{Tr} \ln G^{-1}[\phi] \\ &\cong \beta V \sum_{\Omega_m, \mathbf{q}} \frac{q^2}{8\pi e^2} \phi(\mathbf{q}, \Omega_m) \phi(-\mathbf{q}, -\Omega_m) + \text{Tr}[G_0 V] + \frac{1}{2} \text{Tr}[G_0 V G_0 V] \end{aligned} \quad (191)$$

ここで

$$\text{Tr}[G_0 V] \propto \phi(\mathbf{0}, 0) \quad (192)$$

は一様・静的な成分であるがこれはバックグラウンドの正電荷による中性条件よりこのような成分は考えないのでゼロとする。

$$\begin{aligned}
& \frac{1}{2} \text{Tr}[G_0 V G_0 V] \\
&= \frac{1}{2} \int d\tau_1 d\tau_2 d\tau_3 d\tau_4 d^3 x_1 d^3 x_2 d^3 x_3 d^3 x_4 \text{tr}[G_0(1, 2) V(2, 3) G_0(3, 4) V(4, 1)] \\
&= \frac{1}{2} \int d\tau_1 d\tau_2 d^3 x_1 d^3 x_2 \text{tr} \left[\frac{1}{\beta V} \sum_{\omega_n \mathbf{k}} G_0(\omega_n, \mathbf{k}) e^{-i\omega_n(\tau_1 - \tau_2) + i\mathbf{k} \cdot (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_2)} i\phi(\tau_1, \mathbf{x}_1) \right. \\
&\quad \left. \frac{1}{\beta V} \sum_{\omega'_n \mathbf{k}'} G_0(\omega'_n, \mathbf{k}') e^{-i\omega'_n(\tau_2 - \tau_1) + i\mathbf{k}' \cdot (\mathbf{x}_2 - \mathbf{x}_1)} i\phi(\tau_2, \mathbf{x}_2) \right] \\
&= \frac{1}{2} \sum_{\omega_n \mathbf{k}} \sum_{\omega'_n \mathbf{k}'} \text{tr} [G_0(\omega_n, \mathbf{k}) i\phi(\omega'_n - \omega_n, \mathbf{k}' - \mathbf{k}) G_0(\omega'_n, \mathbf{k}') i\phi(\omega_n - \omega'_n, \mathbf{k} - \mathbf{k}')] \\
&= \sum_{\Omega_m \mathbf{q}} \left(-\frac{1}{2} \sum_{\omega_n \mathbf{k}} \text{tr} [G_0(\omega_n + \Omega_m/2, \mathbf{k} + \mathbf{q}/2) G_0(\omega_n - \Omega_m/2, \mathbf{k} - \mathbf{q}/2)] \right) \phi(\Omega_m, \mathbf{q}) \phi(-\Omega_m, -\mathbf{q}) \\
&=: \beta V \sum_{\Omega_m \mathbf{q}} \left(-\frac{1}{2} \pi(\Omega_m, \mathbf{q}) \right) \phi(\Omega_m, \mathbf{q}) \phi(-\Omega_m, -\mathbf{q})
\end{aligned} \tag{193}$$

ここで分極関数

$$\pi(\Omega_m, \mathbf{q}) = \frac{1}{\beta V} \sum_{\omega_n \mathbf{k}} \text{tr} [G_0(\omega_n + \Omega_m/2, \mathbf{k} + \mathbf{q}/2) G_0(\omega_n - \Omega_m/2, \mathbf{k} - \mathbf{q}/2)] \tag{194}$$

を定義した。よって RPA 近似の作用として

$$\begin{aligned}
S_2[\phi] &= \beta V \sum_{\Omega_m, \mathbf{q}} \frac{\mathbf{q}^2}{8\pi e^2} \phi(\mathbf{q}, \Omega_m) \phi(-\mathbf{q}, -\Omega_m) + \beta V \sum_{\Omega_m, \mathbf{q}} \left(-\frac{1}{2} \pi(\Omega_m, \mathbf{q}) \right) \phi(\Omega_m, \mathbf{q}) \phi(-\Omega_m, -\mathbf{q}) \\
&= \beta V \sum_{\Omega_m, \mathbf{q}} \left(\frac{\mathbf{q}^2}{8\pi e^2} - \frac{1}{2} \pi(\Omega_m, \mathbf{q}) \right) \phi(\Omega_m, \mathbf{q}) \phi(-\Omega_m, -\mathbf{q})
\end{aligned} \tag{195}$$

を得る。通常は $\phi \mapsto e\phi$ と再定義して

$$S_2[\phi] = \beta V \sum_{\Omega_m, \mathbf{q}} \left(\frac{\mathbf{q}^2}{8\pi} - \frac{1}{2} e^2 \pi(\Omega_m, \mathbf{q}) \right) \phi(\Omega_m, \mathbf{q}) \phi(-\Omega_m, -\mathbf{q}) \tag{196}$$

とする。

分極関数を計算しよう。

$$\begin{aligned}
\pi(\Omega_m, \mathbf{q}) &= \frac{1}{\beta V} \sum_{\omega_n \mathbf{k}} \text{tr} [G_0(\omega_n + \Omega_m/2, \mathbf{k} + \mathbf{q}/2) G_0(\omega_n - \Omega_m/2, \mathbf{k} - \mathbf{q}/2)] \\
&= \frac{1}{\beta V} \sum_{\omega_n \mathbf{k}} \text{tr} [G_0(\omega_n + \Omega_m, \mathbf{k} + \mathbf{q}/2) G_0(\omega_n, \mathbf{k} - \mathbf{q}/2)] \\
&= \frac{2}{\beta V} \sum_{\omega_n \mathbf{k}} \frac{1}{i\omega_n + i\Omega_m - \xi_{\mathbf{k}+\mathbf{q}/2}} \frac{1}{i\omega_n - \xi_{\mathbf{k}-\mathbf{q}/2}} \\
&= -\frac{2}{V} \sum_{\mathbf{k}} \int \frac{dz}{2\pi i} \frac{1}{z + i\Omega_m - \xi_{\mathbf{k}+\mathbf{q}/2}} \frac{1}{z - \xi_{\mathbf{k}-\mathbf{q}/2}} f(z) \\
&= \frac{2}{V} \sum_{\mathbf{k}} \frac{f(\xi_{\mathbf{k}-\mathbf{q}/2}) - f(\xi_{\mathbf{k}+\mathbf{q}/2})}{i\Omega_m + \xi_{\mathbf{k}-\mathbf{q}/2} - \xi_{\mathbf{k}+\mathbf{q}/2}}
\end{aligned} \tag{197}$$

$e^{i\Omega_m} = 1$ に注意。 $|\mathbf{q}| \ll k_F$ で長波長展開する。

$$\xi_{\mathbf{k}+\mathbf{q}/2} - \xi_{\mathbf{k}-\mathbf{q}/2} = \mathbf{v}_F \cdot \mathbf{q} + O(q^3) \tag{198}$$

$$f(\xi_{\mathbf{k}+\mathbf{q}/2}) - f(\xi_{\mathbf{k}-\mathbf{q}/2}) = \frac{\partial f(\xi_{\mathbf{k}})}{\partial \xi} \mathbf{v}_F \cdot \mathbf{q} + O(q^3) \tag{199}$$

より

$$\pi(\Omega_m, \mathbf{q}) = \frac{2}{V} \sum_{\mathbf{k}} \left(-\frac{\partial f(\xi_{\mathbf{k}})}{\partial \xi} \right) \frac{\mathbf{v}_F \cdot \mathbf{q}}{i\Omega_m - \mathbf{v}_F \cdot \mathbf{q}} + O(q^3) \tag{200}$$

絶対零度としよう。 $-\frac{\partial f(\xi_{\mathbf{k}})}{\partial \xi} = \delta(\xi_{\mathbf{k}}) + O(T^2)$ として

$$\pi(\Omega_m, \mathbf{q}) = \frac{2}{V} \sum_{\mathbf{k}} \delta(\xi_{\mathbf{k}}) \frac{\mathbf{v}_F \cdot \mathbf{q}}{i\Omega_m - \mathbf{v}_F \cdot \mathbf{q}} + O(T^2, q^3) \tag{201}$$

等方的なフェルミ面を仮定する。 $\mathbf{v}_F \cdot \mathbf{q} = v_F q \cos \theta$ として

$$\begin{aligned}
\pi(\Omega_m, \mathbf{q}) &= \frac{2}{V} \sum_{\mathbf{k}} \delta(v_F(k - k_F)) \frac{v_F q \cos \theta}{i\Omega_m - v_F q \cos \theta} + O(T^2, q^3) \\
&= \frac{2}{(2\pi)^2} \int k^2 dk \int_1^{-1} d \cos \theta \delta(v_F(k - k_F)) \frac{v_F q \cos \theta}{i\Omega_m - v_F q \cos \theta} + O(T^2, q^3) \\
&= \frac{2}{(2\pi)^2} \frac{k_F^2}{v_F} \int_1^{-1} d \cos \theta \frac{v_F q \cos \theta}{i\Omega_m - v_F q \cos \theta} + O(T^2, q^3) \\
&= \frac{2}{(2\pi)^2} \frac{k_F^2}{v_F} \left(-2 - \frac{i\Omega_m}{v_F q} \ln \left[\frac{i\Omega_m - v_F q}{i\Omega_m + v_F q} \right] \right) + O(T^2, q^3) \\
&= -2\rho_0 \left(1 - \frac{\Omega_m}{v_F q} \tan^{-1} \left[\frac{v_F q}{\Omega_m} \right] \right) + O(T^2, q^3)
\end{aligned} \tag{202}$$

となる。

$$\begin{aligned}
\tan\left(\frac{1}{2i}\ln\left[\frac{i-a}{i+a}\right]\right) &= \frac{1}{i}\frac{\exp\left(\frac{1}{2}\ln\left[\frac{i-a}{i+a}\right]\right) - \exp\left(-\frac{1}{2}\ln\left[\frac{i-a}{i+a}\right]\right)}{\exp\left(\frac{1}{2}\ln\left[\frac{i-a}{i+a}\right]\right) + \exp\left(-\frac{1}{2}\ln\left[\frac{i-a}{i+a}\right]\right)} \\
&= \frac{1}{i}\frac{\left[\frac{i-a}{i+a}\right]^{\frac{1}{2}} - \left[\frac{i-a}{i+a}\right]^{-\frac{1}{2}}}{\left[\frac{i-a}{i+a}\right]^{\frac{1}{2}} + \left[\frac{i-a}{i+a}\right]^{-\frac{1}{2}}} \\
&= \frac{1}{i}\frac{(i-a) - (i+a)}{(i-a) + (i+a)} = a
\end{aligned} \tag{203}$$

に注意。ここで $\rho_0 = \frac{2k_F^2}{(2\pi)^2 v_F}$ はスピン当たりの DOS。

静的極限 $\Omega_m \ll v_F q$ は

$$\pi(\Omega_m, \mathbf{q}) \cong -2\rho_0 \left(1 - \frac{\pi}{2} \frac{|\Omega_m|}{v_F q}\right) \tag{204}$$

すると ϕ の Green 関数は

$$D(\Omega_m, \mathbf{q}) \cong \frac{1}{\frac{q^2}{8\pi} + e^2 \rho_0 \left[1 - \frac{\pi}{2} \frac{|\Omega_m|}{v_F q}\right]} \tag{205}$$

となり、 $\Omega_m \mapsto \Omega + i0$ と解析接続すると

$$D_R(\Omega, \mathbf{q}) \cong \frac{1}{\frac{q^2}{8\pi} + e^2 \rho_0 \left[1 + \frac{\pi}{2} \frac{i\Omega_m}{v_F q}\right]} \tag{206}$$

となり有限の寿命と $\lambda = (8\pi e^2 \rho_0)^{-\frac{1}{2}}$ の長さスケールのスクリーニングを得る。

動的極限 $\Omega_m \gg v_F q$ は

$$\pi(\Omega_m, \mathbf{q}) \cong -\frac{2}{3}\rho_0 \frac{v_F^2 q^2}{\Omega_m^2} \tag{207}$$

より

$$\begin{aligned}
D(\Omega_m, \mathbf{q}) &\cong \frac{1}{\frac{q^2}{8\pi} + \frac{e^2}{3}\rho_0 \frac{v_F^2 q^2}{\Omega_m^2}} \\
&= \frac{8\pi}{q^2 \left(1 + \frac{\omega_p^2}{\Omega_m^2}\right)}
\end{aligned} \tag{208}$$

を得る。ここで $\omega_p^2 = \frac{8\pi\rho_0 e^2 v_F^2}{3}$ はプラズマ周波数。解析接続 $\Omega_m \mapsto \Omega + i0$ して

$$D_R(\Omega, \mathbf{q}) \cong \frac{8\pi}{q^2 \left(1 - \frac{\omega_p^2}{(\Omega+i0)^2}\right)} \tag{209}$$